

本書について

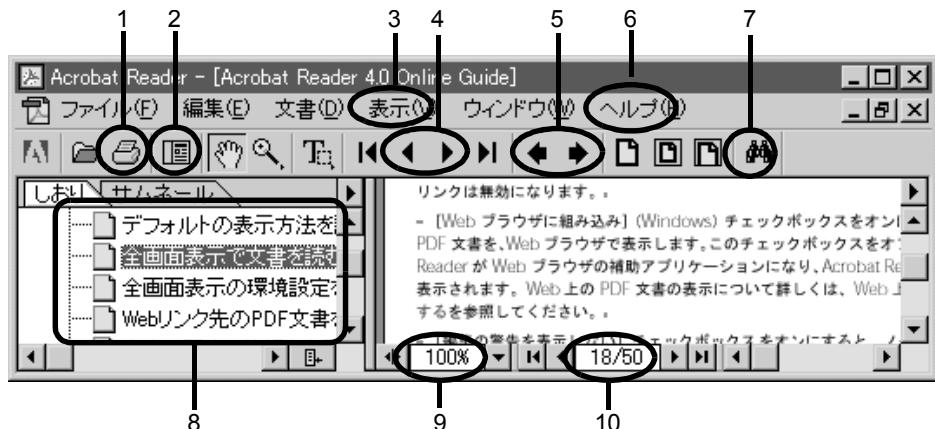
本書では、周辺機器の増設や、BIOS セットアップの操作方法など、ハードウェアに関する技術的な情報を説明しています。作業を行う場合は、本書の必要なページを印刷してご覧いただくことをお勧めします。

印刷にあたっては、プリンタとパソコン本体を接続する必要があります。プリンタの接続については、お使いのプリンタのマニュアルをご覧ください。なお、このパソコンでプリンタを使いになるうえでの注意事項がありますので、「[プリンタを接続する](#)」(☞ P.26) もあわせてご覧ください。

接続の前には必ず、パソコン本体、および接続されている機器の電源プラグをコンセントから抜いてください。

本書の見かた (Acrobat Reader の使いかた)

ここでは、基本的なボタンの機能について説明します。詳しくは、ヘルプをご覧ください。



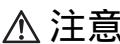
- 1 文書を印刷します。プリンタ名、印刷範囲、印刷部数などを指定し、「OK」をクリックします。ページ範囲を指定するときには、ウインドウの最下行に「18/50」などと表示されているページ数を指定してください。本文のページ表記と違う場合がありますので、ご注意ください。
- 2 しおり / サムネールを表示または非表示にします。
- 3 文書の表示倍率などを設定します。
- 4 ◀で前のページに戻ります。
▶で次のページに進みます。
- 5 ◀で今まで表示した画面を逆戻りします。
▶でいったん逆戻りした画面を、一画面ずつ進めます。
- 6 Acrobat Reader のヘルプを表示します。「ヘルプ」メニュー「Reader Guide」の順にクリックします。
- 7 キーワードを入力して文書内を検索できます。現在表示されているページから検索が始まります。
- 8 しおりの中から見たいタイトルをクリックすると、そのページを表示できます。

- 9 拡大または縮小率を選択できます。
- 10 表示しているページ数と全ページ数を表示します。

本書の表記について

安全にお使いいただくための絵記号について

本書では、いろいろな絵表示を使用しています。これは装置を安全に正しくお使いいただき、お客様ご自身や他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、お読みください。

	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。
	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使っています。

	で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
	で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。
	で示した記号は、必ずしたがっていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。

本文中の記号について

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
	お使いになるときに注意していただきたいことや、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
	知っていると便利なことを記述しています。必要に応じてお読みください。
	参照先を記述しています。
	ご覧になっていただきたいマニュアルを記述しています。
	CD-ROM を表しています。

コマンド入力（キー入力）について

本文中では、コマンド入力を次のように表記しています。

diskcopy a: a:
↑ ↑

の箇所のように文字間隔を空けて表記している部分は、□（空白キー）を1回押してください。

また、上記のようなコマンド入力を英小文字で表記していますが、英大文字で入力してもかまいません。

画面例およびイラストについて

- 表記されている画面は一例です。お使いの機種やモデルによって、画面が異なる場合があります。
- イラストは本来接続されているケーブルなどを省略している場合があります。

製品の呼びかたについて

製品名称を、次のように略して表記します。

製品名称	本書での表記
Microsoft® Windows® 98 operating system SECOND EDITION	Windows98
Adobe® Acrobat® Reader 4.05	Acrobat Reader

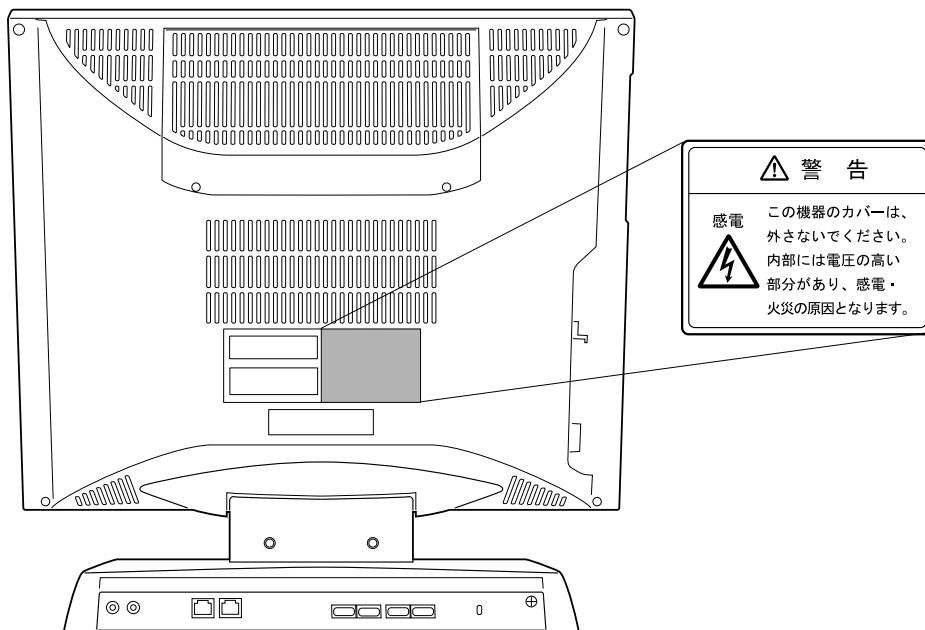
商標および著作権について

Microsoft、Windows、MS、MS-DOSは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。Pentiumは、米国インテル社の登録商標です。
その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。
その他の各製品は、各社の著作物です。

All Rights Reserved, Copyright© 富士通株式会社 2000
画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。

警告ラベル

このパソコンには、下図のように警告ラベルが貼ってあります。
警告ラベルは、絶対にはがしたり、汚したりしないでください。



⚠ 警告



- オプション装置の取り付けや取り外しを行う場合は、パソコン本体および接続されている装置の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。
感電の原因となります。

内蔵モデムの取扱説明書について

このパソコンの内蔵モデムについては、それぞれの取扱説明書にも詳しい説明が記載されています。本書とあわせてご覧ください。

内蔵モデムの取扱説明書

- ...▶「FMV-FX52Z1 取扱説明書」

目次

本書について	1
本書の見かた (Acrobat Reader の使いかた)	1
本書の表記について	2
内蔵モデムの取扱説明書について	4

第 1 章 はじめに

1 各部の名称と働き	10
パソコン本体前面	10
パソコン本体側面	12
パソコン本体背面	14
キーボード	15
マウス	18
2 画面の解像度と発色数について	19
表示できる解像度と発色数	19
解像度や発色数を変更する	20

第 2 章 周辺機器を使う

1 周辺機器を取り付ける前に	24
取り扱い上の注意	24
2 プリンタを接続する	26
必要なものを用意する	26
プリンタを接続する	26
プリンタを使うときの注意	27
3 PC カードを使う	28
PC カードを使うときの注意	28
必要なものを用意する	29
PC カードをセットする	30
PC カードを取り出す	32
4 デジタルビデオカメラを使う	35
必要なものを用意する	35
デジタルビデオカメラを接続する	36
5 デジタルカメラを使う	38
画像データの取り込みかた	38
デジタルカメラを接続する	39
6 スキャナを接続する	40
必要なものを用意する	40

スキャナを接続する	41
7 USB 機器を接続する	42
必要なものを用意する	42
USB 機器を接続する	43
8 ターミナルアダプタを接続する	44
必要なものを用意する	44
ターミナルアダプタを接続する	44
9 MD レコーダーを接続する	46
必要なものを用意する	46
MD レコーダーを接続する	47
10 携帯電話や PHS を接続する	48
必要なものを用意する	48
携帯電話や PHS を接続する	49
携帯電話や PHS 用のモデムを選択する	50
11 メモリを増やす	51
メモリの取り付け場所	51
取り付けられるメモリ	52
メモリを取り付ける	53
12 MO ドライブを増設する	61
お使いになれる MO ドライブ	61
必要なものを用意する	62
外付け MO ドライブを取り付ける	63
13 ハードディスクを増設する	66
必要なものを用意する	66
ハードディスクを使うには	67
ハードディスクの領域を設定する	67
フォーマットする	74

第3章 BIOS セットアップ

1 BIOS セットアップとは	80
2 BIOS セットアップの操作のしかた	81
BIOS セットアップを起動する	81
設定を変更する	82
BIOS セットアップを終了する	84
3 ご購入時の設定に戻す	86
4 BIOS のパスワード機能を使う	88
パスワードの種類	88
パスワードを設定する	88
パスワードを忘れてしまったら	90

パスワードを変更 / 削除する	91
5 BIOS が表示するメッセージ一覧	93
メッセージが表示されたときは	93
メッセージ一覧	93

第4章 技術情報

1 ハードウェアのお手入れ	98
パソコン本体 / AC アダプタ / 液晶ディスプレイ / キーボードのお手入れ	98
マウスのお手入れ	99
フロッピーディスクドライブのお手入れ	100
2 その他の注意事項	101
インテル® プロセッサ シリアルナンバについて (K4/66 のみ)	101
スタンバイ時の注意	101
画面表示について	101
電源の切断について	102
索引	103

1

第1章 はじめに

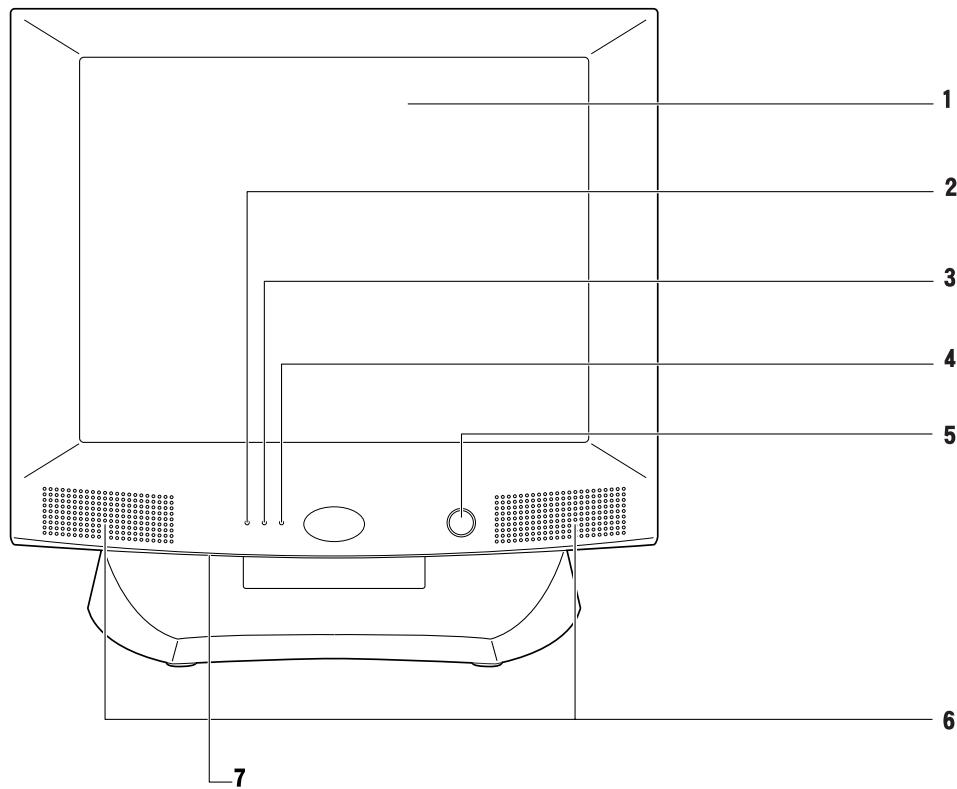
パソコン本体やキーボードなどの各部の名称について説明しています。

- | | |
|-------------------------|----|
| 1. 各部の名称と働き | 10 |
| 2. 画面の解像度と発色数について | 19 |

1 各部の名称と働き

ここでは、パソコン本体前面、側面、背面、キーボード、マウスの各部の名称と働きを説明します。

パソコン本体前面



1 液晶ディスプレイ

パソコンの画面を表示する液晶ディスプレイです。液晶ディスプレイを見やすい角度（縦方向のみ）に変えるときは、台座部分を手でおさえながら、角度の調整をしてください。

2 メール着信ランプ

ワンタッチボタン設定と連携し、E メールを受信したときに点滅します（省電力機能を APM モードに変更すると無効になります）。

3 アクセス表示ランプ

ハードディスクのデータを読み書きしているときや、DVD-ROM ドライブからデータを読み込んでいるときに点灯します。

4 電源ランプ

パソコン本体に電源が入っているときに点灯します。

5 電源スイッチ

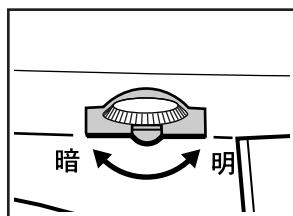
パソコン本体の電源を入れるときと、切るときに押します。

6 スピーカー

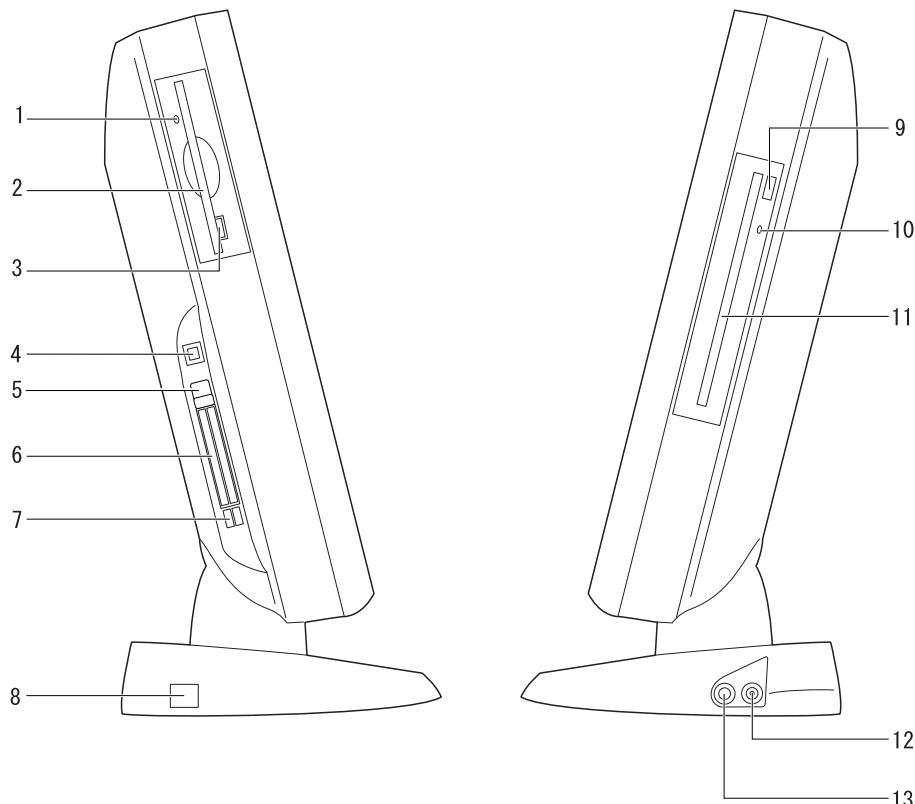
パソコンの音声を出力します。

7 ブライトネスボリューム

液晶ディスプレイのバックライトの明るさを調節します。右に回転させると明るくなり、左に回転させると暗くなります。



パソコン本体側面



1 フロッピーディスクアクセス表示ランプ

フロッピーディスクのデータを読み書きしているときに点灯します。

2 フロッピーディスクドライブ

フロッピーディスクをセットし、データを読み書きします。

3 フロッピーディスク取り出しボタン

フロッピーディスクを取り出すときに押します。

4 IEEE1394 (DV) 端子

デジタルビデオカメラ (DV) と接続される DV ケーブルを接続します。

5 PC カードストッパー

セットした PC カードが不用意に抜けるのを防ぎます。

6 PC カードスロット

別売の PC カードをセットするためのスロットです。

7 PC カード取り出しボタン

PC カードを取り出すときに押します。

8 DC-IN コネクタ

AC アダプタを接続します。

9 EJECT ボタン

DVD-ROM ドライブからディスクを取り出すときに押します。パソコン本体の電源が入っているときに使えます。

10 BUSY ランプ

CD-ROM や DVD-ROM からデータを読み込んでいるときや、音楽 CD を再生しているときに点滅します。

11 DVD-ROM ドライブ

CD-ROM や DVD-ROM のデータを読み出したり、音楽 CD を再生したりします。

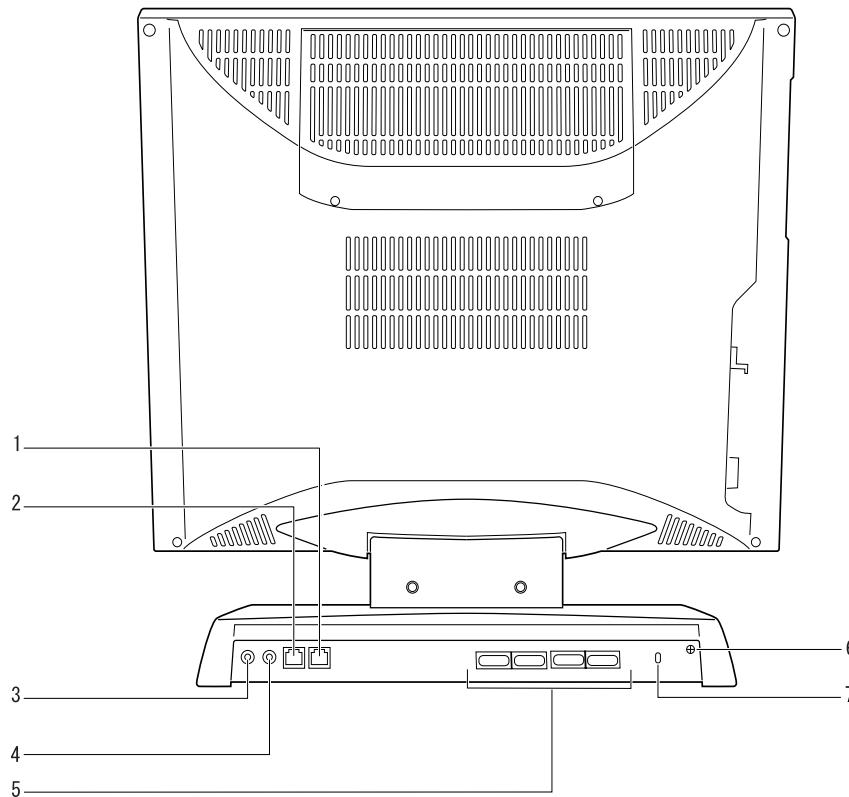
12 マイク端子

添付のヘッドセットのマイクプラグを接続します。

13 ヘッドホン端子 / 光デジタルオーディオ出力端子

添付のヘッドセットのヘッドホンプラグまたは市販のヘッドホン、市販の光デジタルオーディオケーブルを接続します。

パソコン本体背面



1 PHONE 端子

電話機とつながるモジュラーケーブルを接続します。

2 LINE 端子

電話回線とつながるモジュラーケーブルを接続します。

3 LINE OUT 端子

オーディオ機器などの音声入力端子を接続します。

4 LINE IN 端子

オーディオ機器などの音声出力端子を接続します。

5 USB コネクタ

USB 機器を接続します。

6 アース端子

添付のアース線を接続します。

7 盗難防止用ロック

盗難防止用ケーブルを接続することができます。

Kensington 社製のマイクロセーバーセキュリティシステムに対応しています。

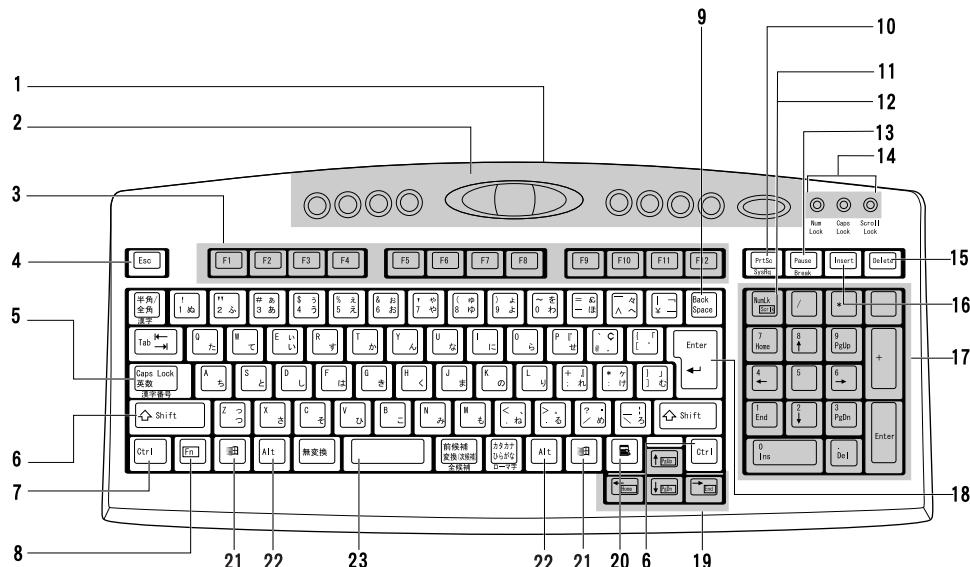
商品名：マイクロセーバー（セキュリティワイヤー）

商品番号：0522010

（富士通コワーコ株式会社取り扱い品 お問い合わせ：03-3342-5375）

キーボード

キーボードは、パソコンに対して指示を与え、実行させるためのものです。お使いになるアプリケーションによって動作が異なることがあります。ここでは、各キーを押したときの一般的な動作を説明しています。



1 マウスポート

添付のマウスを接続します (☞『取扱説明書』)。
添付のマウス以外は接続しないでください。

2 ワンタッチボタン

音楽 CD の操作や音量調節、メールソフトの起動を直接行えるボタンです。
パソコン本体の電源が入っているときに使えます。

3 F (ファンクション) キー

アプリケーションごとにいろいろな役割が割り当てられます。

4 Esc (エスケープ) キー

作業を取り消すときに使います。

5 Caps Lock (キャップスロック) 英数キー

アルファベットを入力するときに、[Shift] を押しながらこのキーを押すと、大文字 / 小文字入力が切り替わります。

6 Shift (シフト) キー

他のキーと組み合わせて使います。このキーを押しながら文字キーを押すと、キーの上段に刻印されている文字や記号が入力できます。また、アルファベットの大文字 / 小文字を切り替えながら入力できます。

7 Ctrl (コントロール) キー

他のキーと組み合わせて使います。

8 Fn (エフエヌ) キー

他のキーと組み合わせて使います。このキーを押しながらカーソルキーや、 を押すと、□で囲まれた機能が使えます。

9 Back space (バックスペース) キー

カーソルの左側の文字が削除されます。

10 PrtSc (プリントスクリーン) キー

画面表示をビットマップファイルとして保存するときに押します。

 を押しながらこのキーを押すと、アクティブウィンドウだけをビットマップファイルにできます。

キーを押したあとにペイントソフト（ペイントなど）を起動し、「編集」メニューの「貼り付け」などを選ぶことで編集、保存、印刷ができます。

11 NumLk (ニューメリカルロック) キー

テンキーの機能に切り替わります。

12 ScrLk (スクロールロック) キー

 を押しながらこのキーを押すと、画面がスクロールしないようになります。

13 Pause (ポーズ) キー

画面のスクロールが、一時的に止まります。

14 インジケータ

次のキーを押すと点灯し、各機能が使えるようになります。

再び押すと、消灯します。

- Num Lock : 

- Caps Lock :  を押しながら 

- Scroll Lock :  を押しながら 

15 Delete (デリート) キー

カーソルの右側の文字が削除されます。

16 Insert (インサート) キー

入力する文字の挿入 / 上書きを切り替えます。

17 テンキー

Num Lock インジケータ点灯時に、数字や記号が入力できます。

Num Lock インジケータ消灯時は、キーワー下段に刻印された機能が使えます。

18 Enter (エンター) キー

入力した文字を確定するときなどに押します。

リターンキーまたは改行キーとも呼ばれます。

19 カーソルキー

カーソルが上下左右に移動します。

- PgUp (ページアップ) キー : 前ページに切り替わります。

- PgDn (ページダウン) キー : 次ページに切り替わります。

- Home (ホーム) キー : カーソルが行の先頭に移動します。

 と  を押しながらこのキーを押すと、カーソルが文書の最初に移動します。

- End (エンド) キー : カーソルが行の最後に移動します。

〔Fn〕と〔Ctrl〕を押しながらこのキーを押すと、カーソルが文書の最後に移動します。

20 Application (アプリケーション) キー

右クリックと同じ役割をします。

21 Windows (ウィンドウズ) キー

「スタート」メニューが表示されます。

22 Alt (オルト) キー

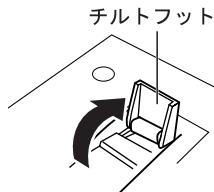
他のキーと組み合わせて使います。

23 空白 (スペース) キー

空白が入力されます。

POINT

- ▶ キーボード底面にあるチルトフットを起こすと、キーボードに角度をつけて置くことができます。使いやすいほうをお選びください。

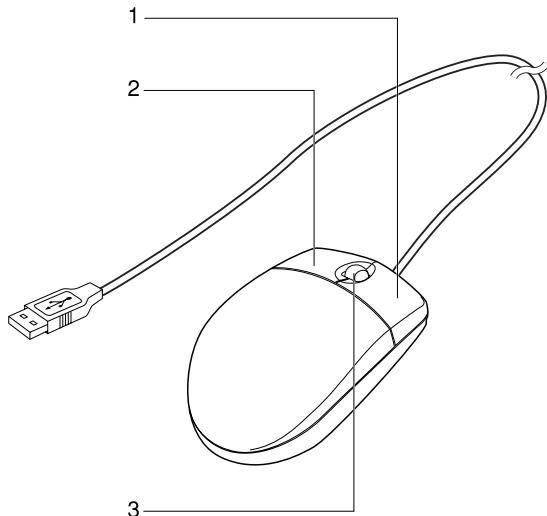


- ▶ 添付のキーボードはパソコン本体背面の USB コネクタに接続してお使いください。他の USB ハブではお使いになれません。

マウス

マウスは、画面の中の絵や文字を指して、パソコンに情報を伝えるための道具です。キーボードのマウスポート（[P.15](#)）に接続します。

スクロールボタンについては、『取扱説明書』をご覧ください。



1 右ボタン

右クリックするとき押します。

2 左ボタン

クリックするとき押します。

3 スクロールボタン

画面をスクロールしたいときに、押したりスライドさせたりします。

POINT

- ▶ 左右ボタンの役割を入れ替えることができます。
詳しくは、『ユーザーズガイド』の「Q & A」をご覧ください。
- ▶ マウスの裏にあるボールが汚れていると、すべりが悪くなります。マウスのボールはクリーニングできます。詳しくは、「マウスのお手入れ」（[P.99](#)）をご覧ください。

2 画面の解像度と発色数について

解像度を高く（大きい数字に）すると画面を広く使えるようになります。多くのウィンドウを表示できます。発色数を増やすと画面に表示できる色数が多くなります。ここでは、画面の解像度や発色数の変更のしかたを説明します。

1024 × 768 の場合



800 × 600 の場合



表示できる解像度と発色数

このパソコンで表示できる解像度や発色数は次のとおりです。

△ 重要

- 次の表に書かれている以外の解像度ではお使いにならないでください。設定できる発色数は、画面の解像度によって異なります。解像度を高くすると、設定できる発色数は少なくなります。

POINT

- 解像度
縦横にどれだけの点（ドット）を表示できるかを示すものです。
- アプリケーションによっては、使用時の解像度や発色数が指定されていることがあります。必要に応じて変更してください。

解像度	256 色	High Color (16 ピット)	True Color (24 ピット)
640 × 480 ドット			
800 × 600 ドット			
1024 × 768 ドット			

- ・は表示可能、×は表示不可、□はご購入時の設定です。
- High Color (16 ピット) は 6 万 5 千色、True Color (24 ピット) は、1619 万色です。

解像度や発色数を変更する

☞ 重要

- ▶ 解像度、発色数を変更すると、再起動する必要があります。作業中のデータを保存し、アプリケーションを終了させてから変更してください。
- ▶ 解像度と発色数を変更する前に、次の手順に従ってアクティブデスクトップの設定を解除してください。
 - 1 「スタート」ボタン 「設定」 「アクティブデスクトップ」 「Web ページで表示」の順にクリックし、チェックマークを外します。
 解像度と発色数を変更したあとに、改めてアクティブデスクトップに設定してください。
- ▶ アプリケーションによっては、解像度や発色数の設定により、正常に動作しないことがあります。お使いになるアプリケーションの動作環境を確認し、解像度や発色数を変更してください。
- ▶ 解像度を変更するときに、一時的に画面が乱れことがありますが、動作には問題ありません。

1 「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」の順にクリックします。
 「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

2  (画面) をクリックします。

3 「設定」タブをクリックします。

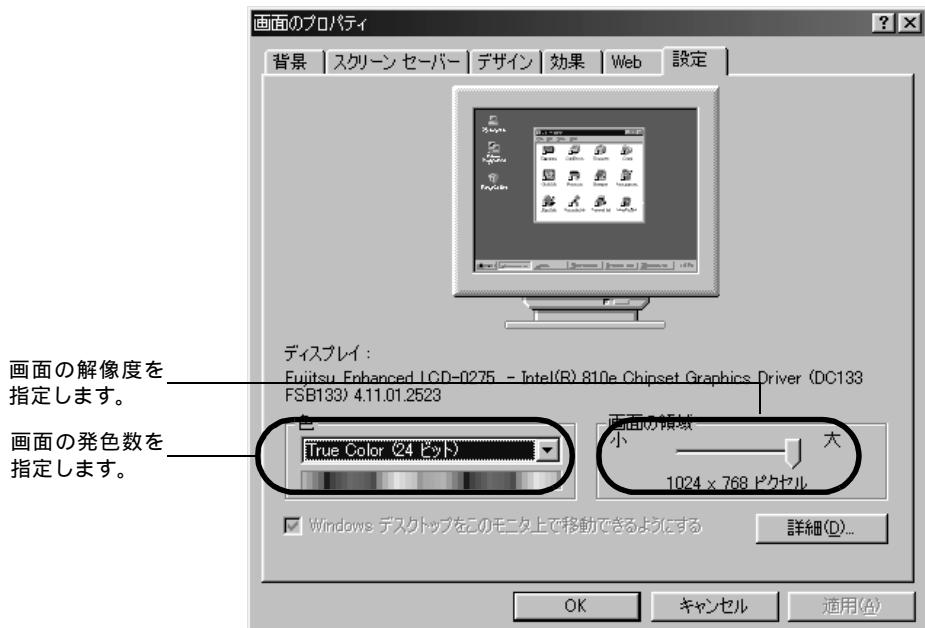


これ以降の画面は機種により若干異なります

4 解像度や発色数を変更します。

解像度を変更するには、「画面の領域」の  を左右にドラッグしてください。

発色数を変更するには、「色」の  をクリックし、一覧から設定したい発色数をクリックしてください。



POINT

- ▶ 画面の解像度や発色数を変更した場合、次の手順に従ってリフレッシュレートを設定してください。
 - 1 「画面のプロパティ」ウィンドウの「設定」タブで、「詳細」をクリックします。
「Intel(r) 810e Chipset Graphics Driver (DC133 FSB133) 4.11.01.2523」のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
 - 2 「アダプタ」タブをクリックします。
 - 3 「リフレッシュレート」が「最適」になっていることを確認します。
上記以外になっている場合は、右側の  をクリックし、選択します。
 - 4 「OK」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウに戻ります。

5 設定が終了したら「OK」をクリックします。

「OK」をクリックすると、画面にメッセージが表示されます。指示に従って操作してください。また、設定変更後は必ず再起動してください。

POINT

- ▶ 「互換性の警告」ウィンドウが表示されたときは
 - 1 「新しい色の設定でコンピュータを再起動する」が になっていることを確認し、「OK」をクリックします。
 - 2 「システム設定の変更」ウィンドウで「はい」をクリックします。
パソコンが再起動します。

第2章

周辺機器を使う

周辺機器の接続や使いかたについて説明しています。

1. 周辺機器を取り付ける前に	24
2. プリンタを接続する	26
3. PC カードを使う	28
4. デジタルビデオカメラを使う	35
5. デジタルカメラを使う	38
6. スキヤナを接続する	40
7. USB 機器を接続する	42
8. ターミナルアダプタを接続する	44
9. MD レコーダーを接続する	46
10. 携帯電話や PHS を接続する	48
11. メモリを増やす	51
12. MO ドライブを増設する	61
13. ハードディスクを増設する	66

1 周辺機器を取り付ける前に

ここでは、周辺機器を取り付ける前に知っておいていただきたいことなどを説明します。

⚠ 警告



- 周辺機器の取り付けや取り外しを行うときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。

感電・火災または故障の原因となります。

⚠ 注意



- 周辺機器ケーブルは正しく接続してください。
誤った接続状態でお使いになると、パソコン本体および周辺機器が故障する原因となることがあります。
- 周辺機器、および周辺機器ケーブルは、弊社純正品をお使いください。
純正品以外の周辺機器、および周辺機器ケーブルをお使いになると、故障の原因となることがあります。

取り扱い上の注意

周辺機器を取り付けるときは、次のことに注意してください。

- 周辺機器は、弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします
純正品が用意されている機器については、純正品以外を取り付けて、正常に動かなかったり、パソコンが故障しても、保証の対象外となります。
純正品が用意されていない周辺機器については、このパソコンに対応しているかどうかをお使いの周辺機器メーカーにご確認ください。
- Windows98 のセットアップは終了していますか？
セットアップを行う前に周辺機器を取り付けると、セットアップが正常に行われないおそれがあります。
『取扱説明書』をご覧になり、Windows98 のセットアップを行ってください。
- 一度に取り付ける周辺機器は 1 つだけに
一度に複数の周辺機器を取り付けると、ドライバのインストールなどが正常に行われないおそれがあります。
- パソコンおよび接続されている機器の電源を切る
安全のため、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 電源を切った直後は作業をしない
電源を切った直後は、パソコン本体内部の装置が熱くなっています。電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあと 10 分ほど待ってから作業を始めてください。
- 内部のケーブル類や装置の扱いに注意
傷つけたり、加工したりしないでください。

- 静電気に注意

内蔵周辺機器は、基板や電子部品がむきだしになっています。これらは、人体に発生する静電気によって損傷を受ける場合があります。取り扱う前に、一度大きな金属質のものに手を触れるなどして静電気を放電してください。

- 基板表面やはんだ付けの部分、コネクタ部分には手を触れない

金具の部分や、基板のふちを持つようにしてください。

- 周辺機器の電源について

周辺機器の電源はパソコン本体の電源を入れる前に入れるもののが一般的ですが、パソコン本体より後に電源を入れるものもあります。周辺機器のマニュアルをご覧ください。

- ACPI に対応した周辺機器をお使いください

このパソコンは、ACPI（省電力に関する電源制御規格の1つ）によって制御していますので、周辺機器も ACPI に対応していることが必要です。

ACPI に対応していない周辺機器をお使いの場合は、増設した機器やパソコンが正常動作しなくなることがあります。周辺機器が ACPI に対応しているかどうかは、周辺機器の製造元にお問い合わせください。

- ドライバーを用意する

パソコン本体のメモリカバーなどの取り外しには、プラスのドライバーが必要です。

ネジの頭をつぶさないように、ネジのサイズに合ったドライバーをご用意ください。

2 プリンタを接続する

プリンタを使ってパソコンで作った年賀状、カード、企画書などをはがきや紙に印刷するためには、最初にプリンタとパソコンを接続する操作が必要になります。

必要なものを用意する

プリンタを接続するには、次のものが必要です。

- プリンタ

Windows98 で動作可能なものをご用意ください。

- プリンタケーブル

プリンタとパソコンを接続するためのケーブルです。

このパソコンでは、パソコン本体の USB コネクタに接続する USB ケーブルがお使いになります。

プリンタによっては USB ケーブルが接続できない場合もあります。その場合は、お使いのプリンタに合わせた USB 変換ケーブルを使って接続することもできます。プリンタのマニュアルをご覧になり、お使いのプリンタに対応したケーブルをご用意下さい。

USB 変換ケーブルには専用のドライバが添付されています。詳しくは、USB 変換ケーブルのマニュアルをご覧ください。

- プリンタドライバ

プリンタに添付されています。

プリンタドライバのフロッピーディスクが数枚添付されている場合は、「Windows98 対応」「PC/AT 互換機用」などと記載されたものをお使いください。

なお、最新版のドライバが各メーカーのホームページからダウンロードできる場合もあります。

- プリンタのマニュアル

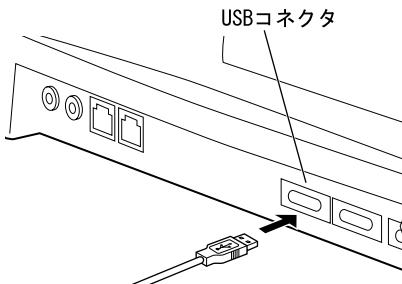
プリンタを接続する

パソコン本体側のコネクタについて説明します。

※ 重要

- ▶ 接続方法は、プリンタによって異なります。プリンタのマニュアルもあわせてご覧ください。

- 1** パソコン本体背面のUSBコネクタに、USBケーブルの片方のコネクタを接続します。



- 2** 初めて接続するプリンタの場合は、ドライバをインストールします。

プリンタを使うときの注意

● プリンタドライバのインストールについて

プリンタのマニュアルに「接続して電源を入れると自動的にドライバのインストールが始まります。」と記載されているても、お使いの環境によっては、プリンタのマニュアルに記載されている手順どおりに設定が進まないことがあります。そのときは、次の手順でドライバをインストールしてください。

- 1 「スタート」ボタン 「設定」 「プリンタ」の順にクリックします。
- 2 「プリンタの追加」をクリックします。
「プリンタの追加ウィザード」ウィンドウが表示されます。
- 3 画面の指示に従って、ドライバをインストールしてください。
 - Windows98 の CD-ROM を要求するメッセージが表示されたときは、「OK」をクリックしてください。「ファイルのコピー」ウィンドウが表示されます。
 - 「ファイルのコピー一元」に `c:\windows\options\cabs` と入力し、「OK」をクリックしてください。
 - CD-ROM からプリンタドライバをインストールする場合に、ドライブ名を指定するときは次のように入力してください
e:
e には、お使いの DVD-ROM ドライブ名を入力してください。

● プリンタの設定について

接続したプリンタは、通常使うプリンタに設定してください。

● スタンバイ状態について

お使いのプリンタが ACPI に対応していない場合は、スタンバイ状態から元の状態に戻ったときに、エラーメッセージが表示されるなどの動作異常が起こる場合があります。

その場合には、スタンバイ状態にならないよう、スタンバイ機能を設定してください。スタンバイ機能については、『取扱説明書』をご覧ください。

3 PC カードを使う

PC カードは、パソコンにさまざまな機能を追加するカードです。

⚠ 注意

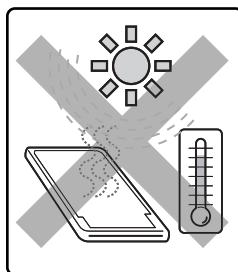


- PC カードをセットまたは取り出すときは、PC カードスロットに指などを入れないでください。
ケガの原因となることがあります。
- お使いになった直後の PC カードは、高温になっているときがあります。PC カードを取り出すときは、お使いになった後しばらく待ってから取り出してください。
火傷の原因となることがあります。

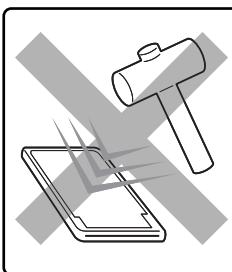


PC カードを使うときの注意

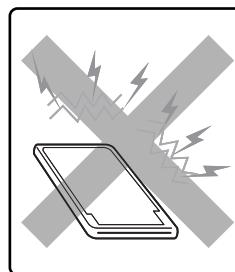
故障を防ぐため、PC カードをお使いになるときは、次の点にご注意ください。



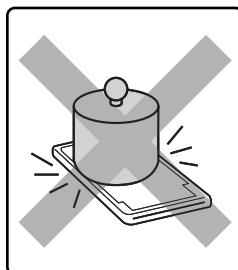
湿度の高い場所や直射日光のあたる場所には置かないでください。



強い衝撃を与えないでください。



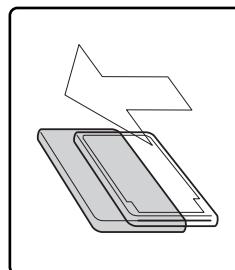
カードをこすったりして静電気を起こさないでください。



曲げたり重い物をのせないでください。



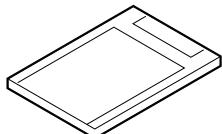
コーヒーなどの液体をかけないでください。



保管する場合は、必ず専用のケースに入れてください。

必要なものを用意する

● PC カード



SCSI カード、LAN カード等がお使いになれます。

また、コンパクトフラッシュカード、スマートメディアアダプタもお使いになれます。どちらも、デジタルカメラから画像データを取り込むときに必要な PC カードです。

POINT

- ▶ PC Card Standard に対応した TYPE I ~ TYPE IV の PC カードが使えます。TYPE I と TYPE II のカードは、同時に 2 枚セットできます。TYPE III のカードは 1 枚のみセットできます（他の PC カードとの同時使用はできません）。電圧は、3.3V または 5V のものがお使いになれます。
- ▶ このパソコンでは、ZV ポート対応の PC カードは使えません。また、PC カードのサイズが規格外のものはお使いになられません。
- ▶ Card Bus 対応の PC カードをお使いになる場合は、通常の PC カードと同様の操作を行ってください。なお、IRQ（割り込み番号）は共有されます。

● PC カードのドライバ

PC カードによっては、CD-ROM やフロッピーディスクで添付されています。

● PC カードのマニュアル

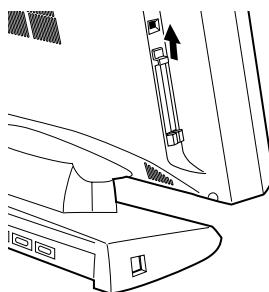
PC カードによって設定方法が異なります。必ず PC カードのマニュアルもご覧ください。

PC カードをセットする

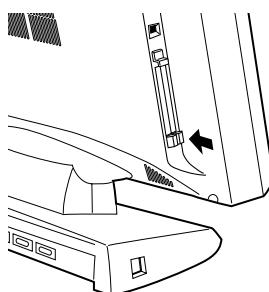
重要

- ▶ PC カードをセットするときは、電源を切った状態で行ってください。
- ▶ コード付きの PC カードや、ケーブルを接続している PC カードのコネクタ部分に物を載せたり、ぶつけたりしないでください。破損の原因となります。

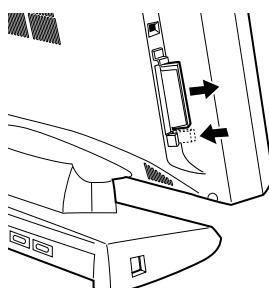
- 1 パソコン本体の電源を切ります。
- 2 PC カードストッパーを上側にスライドさせます。



- 3 PC カード取り出しボタンを押します。
PC カード取り出しボタンを軽く一回押すと、ボタンが少し飛び出します。

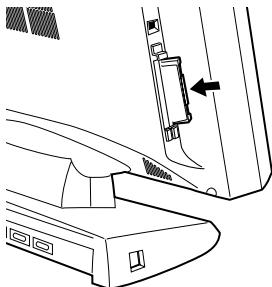
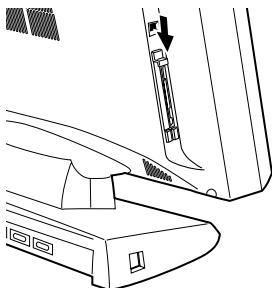


- 4 ダミーカードを取り出します。
飛び出した PC カードボタンを押し、ダミーカードを取り出します。



5 PC カードをセットします。

PC カードの製品名を本体背面側に向けて PC カードスロットに差し込みます。

**6** PC カードストッパーを下側にスライドさせます。**7** パソコン本体の電源を入れます。**8** ドライバをインストールします。

初めてセットする PC カードの場合は、ドライバのインストールという設定作業を行う必要のあるものもあります。PC カードのマニュアルをご覧になり、画面の指示に従ってドライバをインストールしてください。



PC カードによっては、上記の画面は表示されず、自動的にドライバがインストールされることがあります。

POINT

▶ PC カードについて

PC カードの中には、ドライバを組み込んだ際に、ドライバの組み込みが正常に行われず、お使いになれないものがあります。この場合は、次の手順を行ってください。

- 1 「PC カードを使う」の「PC カードを取り出す」(▶ P.32)をご覧になり、PC カードを取り出し、パソコン本体の電源を入れます。
- 2 「スタート」ボタン 「プログラム」 「McAfee VirusScan」 「McAfee VirusScan セントラル」の順にクリックします。
- 3 「V Shield」ボタンをクリックします。
- 4 「システムスキャンプロパティ」が起動します。
- 5 「McAfee VirusScan セントラル」ウィンドウの  をクリックします。
- 6 「PC カードを使う」の「PC カードをセットする」(▶ P.30)をご覧になり、PC カードをセットします。
- 7 表示されるメッセージに従い、ドライバをインストールしてください。
- 8 手順 2 ~ 3 を行います。
- 9  を押し、もう一度  を押します。
- 10 「McAfee VirusScan セントラル」ウィンドウの  をクリックします。

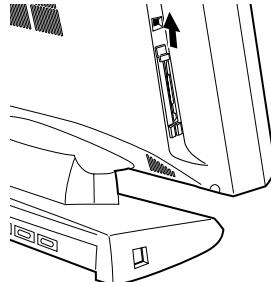
PC カードを取り出す

重要

- ▶ 必ず手順どおりにPC カードを取り出してください。手順どおりに行わないと、PC カードが壊れる原因となります。また、PC カードを取り出すときは、電源を切った状態で行ってください。

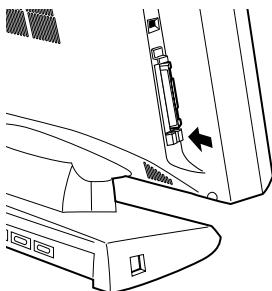
1 パソコン本体の電源を切ります。

2 PC カードストップバーを上側にスライドさせます。

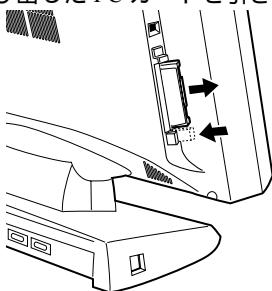


3 PC カード取り出しボタンを押します。

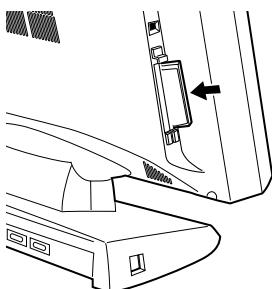
PC カード取り出しボタンを軽く一回押すと、ボタンが少し飛び出します。

**4** もう一度 PC カード取り出しボタンを押し、PC カードを取り出します。

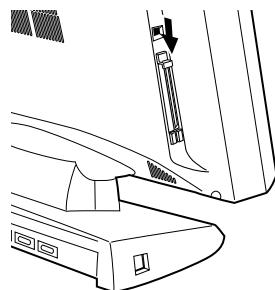
飛び出した PC カードを引き抜きます。

**重 要**

- コード付きのPCカードや、ケーブルを接続しているPCカードを取り出すときは、コードやケーブルを引っ張らないでください。破損の原因となります。

5 ダミーカードを PC カードスロットにセットします。

- 6 PC カードストッパーを下側にスライドさせます。



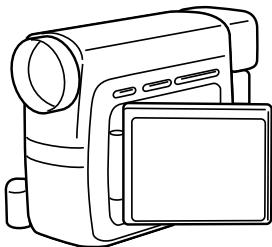
4 デジタルビデオカメラを使う

デジタルビデオカメラで撮影した映像を取り込んで、オリジナルムービーを作りたい・・・そんなときはデジタルビデオカメラを接続します。

必要なものを用意する

デジタルビデオカメラを使うには、次のものが必要です。

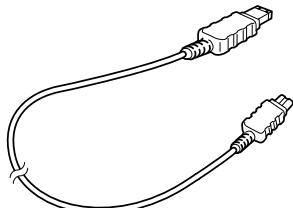
- デジタルビデオカメラ



デジタルビデオカメラは、映像をデジタル情報として記録するビデオカメラで、各社から発売されています。デジタルビデオカメラからパソコンに情報を取り込むには、パソコン本体側面の IEEE1394 (DV) 端子に接続します。

お使いになれるデジタルビデオカメラについては、富士通パソコンホームページ「FM WORLD」(<http://www.fmworld.net>) をご覧ください。

- DV ケーブル



デジタルビデオカメラの DV 端子と、パソコンをつなぐケーブルです。コネクタが 6 ピンのものと 4 ピンのものがあります。このパソコンでは、4 ピンのものがお使いになれます。デジタルビデオカメラのマニュアルをご覧になり、必要なものをご用意ください。

- ソフトウェア

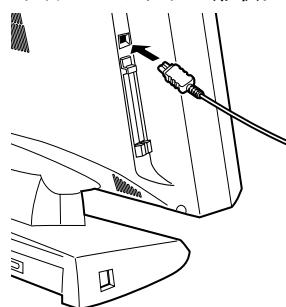
撮影した映像をパソコンに取り込むためのソフトウェアや、文字やイラストを入れて編集したりするソフトウェアが必要です。

このパソコンには、デジタルビデオを取り込んだり編集したりするソフトウェアが添付されています。詳しくは、『ユーザーズガイド』の「楽しさ広がる FMV」をご覧ください。

- デジタルビデオカメラのマニュアル

デジタルビデオカメラを接続する

- 1 パソコン本体および接続されている機器の電源を切ります。
- 2 デジタルビデオカメラに DV ケーブルを接続します。
ケーブルの接続の仕方については、デジタルビデオカメラのマニュアルをご覧ください。
- 3 DV ケーブルのコネクタをパソコン本体側面の IEEE1394(DV) 端子に接続します。
ケーブルのコネクタの形状にあわせて接続してください。



- 4 デジタルビデオカメラに AC アダプタを接続します。
AC アダプタの接続のしかたについては、デジタルビデオカメラのマニュアルをご覧ください。
- 5 パソコン本体および接続されている機器と、デジタルビデオカメラの電源プラグを、コンセントに差し込みます。
- 6 パソコン本体および接続されている機器の電源を入れます。
デジタルビデオカメラの電源も入れてください。その後、ドライバが自動でインストールされます。

POINT

- ▶ 「バージョンの競合」ダイアログボックスが表示された場合は、「はい」をクリックしてください。

- 7 パソコンが起動したら、「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」の順にクリックします。
- 8  (システム)をクリックし、「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
- 9 「イメージングデバイス」の  をクリックし、一覧に「Microsoft DV Camera and VCR」が表示されているのを確認して「OK」をクリックします。

10 「コントロールパネル」ウィンドウの をクリックします。

なお、デジタルビデオカメラの活用については、デジタルビデオカメラのマニュアルをご覧ください。

POINT

- ▶ IEEE1394 のドライバを削除してしまったときには、次の手順に従ってドライバをインストールしてください。
途中で Windows98 の CD-ROM を要求するメッセージが表示されたときは、「OK」をクリックします。表示されたウィンドウの「ファイルのコピー元」に次のフォルダ名を入力し、「OK」をクリックしてください。
c:\windows\options\cabs
- 1 パソコンの電源を入れます。
「新しいハードウェアの追加ウィザード」ダイアログボックスが表示されます。
 - 2 「次へ」をクリックします。
「検索方法を選択してください。」というメッセージが表示されます。
 - 3 「使用中のデバイスに最適なドライバを検索する（推奨）」が になっていることを確認し、次へをクリックします。
 - 4 になっているものをクリックして  にします。
 - 5 「次へ」をクリックします。
「このデバイス用の更新されたドライバが見つかりました。」というメッセージが表示されます。
 - 6 「更新されたドライバ（推奨）」が になっていることを確認し、「次へ」をクリックします。
「次のデバイス用ドライバファイルを検索します。:Texas Instruments OHCI Compliant IEEE1394 Host Controller」というメッセージが表示されます。
 - 7 「次へ」をクリックします。
ファイルがコピーされ、「Texas Instruments OHCI Compliant IEEE1394 Host Controller 新しいハードウェアデバイスに必要なソフトウェアがインストールされました。」というメッセージが表示されます。
 - 8 「完了」をクリックします。
「Texas Instruments OHCI Compliant IEEE1394 Host Controller」がインストールされ、Windows98 が起動します。
 - 9 「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」の順にクリックします。
 - 10  (システム) をクリックします。
「システムのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
 - 11 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
 - 12 「1394 バスコントローラ」の  をクリックします。
一覧が表示されます。
 - 13 「Texas Instruments OHCI Compliant IEEE1394 Host Controller」が表示されていることを確認し、「OK」をクリックします。
 - 14 「コントロールパネル」ウィンドウの  をクリックします。

5 デジタルカメラを使う

デジタルカメラで撮影した、写真などの画像データをパソコンに取り込めば、画面上で自分だけの画像が楽しめます。

画像データの取り込みかた

デジタルカメラの画像データをパソコンに取り込むには、次のような方法があります。

- 専用ケーブルでパソコン本体とデジタルカメラを接続して画像データを転送する
このパソコンでは、パソコン本体の USB コネクタに接続する USB ケーブルがお使いになります。

お使いになれるケーブルは、デジタルカメラによって異なります。デジタルカメラのマニュアルをご覧になり、お使いのデジタルカメラに対応した方法をご確認ください。

また、画像データをパソコンに取り込むためのソフトウェアが必要になる場合もあります。接続キットとしてケーブルに同梱されている場合もあります。

- PC カードやフロッピーディスク、スマートメディアなどの記録メディアから、画像データを読み込む

記録メディアを直接パソコン本体にセットして画像データを読み込みます。

記録メディアをアダプタにセットしてからパソコンにセットしたり、カードリーダーなどを使って読み込んだりする場合もあります。

撮影した画像データを保存できる記録メディアは、デジタルカメラによって異なります。デジタルカメラのマニュアルをご覧になり、お使いのデジタルカメラに対応した方法をご確認ください。

パソコンに画像データを取り込んだあと、撮影した画像データをパソコン画面上で整理したり、文字やイラストを入れたりする場合は、編集するためのソフトウェアが必要になります。編集のためのソフトウェアは、デジタルカメラに添付されている場合もあります。

デジタルカメラの画像データの活用については、『ユーザーズガイド』の「楽しさ広がる FMV」をご覧ください。

デジタルカメラを接続する

△ 重要

- ▶ 画像の取り込み方法、接続方法は、デジタルカメラによって異なります。デジタルカメラのマニュアルもあわせてご覧ください。

専用ケーブルで接続して取り込む場合

パソコン本体側のコネクタについて説明します。

デジタルカメラ側の接続についてなど、詳しくはお使いのデジタルカメラのマニュアルをご覧ください。

- USB コネクタにケーブルを接続する

パソコン本体の [USB コネクタ \(▶P.14 \)](#) にケーブルを差し込みます。

詳しくは、「[USB 機器を接続する](#)」(▶P.42)をご覧ください。

PC カードから画像データを取り込む場合

PC カードスロットに PC カードをセットし、画像を読み込みます。

詳しくは、「[PC カードをセットする](#)」(▶P.30)をご覧ください。

6 スキャナを接続する

スキャナを使ってお気に入りのイラストや写真をパソコンに取り込むためには、最初にスキャナとパソコンを接続する操作が必要になります。

必要なものを用意する

スキャナを接続するには、次のものが必要です。

● スキャナ

コピー機のように原稿をはさんで取り込むフラットベッド型のスキャナが一般的です。ほかにもハンディスキャナや、フィルムから直接写真を取り込むフィルムスキャナなどがあります。

● 専用ケーブルまたは SCSI カードなど

スキャナとパソコンを接続するために使います。どの方法で接続するかは、スキャナによって異なります。スキャナのマニュアルをご覧になり、お使いのスキャナに対応したものをご用意ください。

• USB ケーブル

このパソコンでは、パソコン本体の USB コネクタに接続する USB ケーブルをお使いになれます。

• SCSI カード、SCSI ケーブル、終端抵抗 (ターミネータ)

SCSI 規格のスキャナを接続するために必要なものです。

終端抵抗 (ターミネータ) は、内蔵されているものもあります。

SCSI カード、SCSI ケーブル、終端抵抗 (ターミネータ) については、「[MO ドライブを増設する](#)」の「[必要なものを用意する](#)」(☞P.62) をご覧ください。

スキャナには TWAIN (トゥウェイン) という、画像をコンピュータに取り込むための規格があります。画像を加工するためのフォトレタッチソフトのほとんどは、この規格に対応しています。TWAIN 対応のスキャナをお使いになることをお勧めします。

● スキャナのドライバ

スキャナに添付されています。

スキャナのドライバのフロッピーディスクが数枚添付されている場合は、「Windows98対応」「PC/AT 互換機用」などと記載されたものをお使いください。

● スキャナのマニュアル

パソコンに画像データを取り込んだあと、取り込んだ画像の色を調整したり、画像を合成したり、自分の好きなファイル形式に変換したりする場合は、画像を加工するソフトウェア (フォトレタッチソフト) が必要になります。加工のためのソフトウェアは、スキャナに添付されている場合もあります。

スキャナを接続する

△ 重要

- 接続方法は、スキャナによって異なります。スキャナのマニュアルもあわせてご覧ください。

専用ケーブルで接続する場合

パソコン本体側のコネクタについて説明します。

スキャナ側の接続についてなど、詳しくはお使いのスキャナのマニュアルをご覧ください。

- USB コネクタにケーブルを接続する

パソコン本体の [USB コネクタ](#) ([P.14](#)) にケーブルを差し込みます。

詳しくは、「[USB 機器を接続する](#)」([P.42](#)) をご覧ください。

SCSI 規格のスキャナと接続する場合

SCSI 規格のスキャナとパソコンを接続する場合は、最初に PC カードタイプの SCSI カードをパソコン本体の PC カードスロットにセットする必要があります。

取り付けについては、SCSI カードのマニュアルもあわせてご覧ください。

1 SCSI カードをセットします。

「[PC カードを使う](#)」([P.28](#))

2 SCSI ケーブルでスキャナと SCSI カードを接続します。

必ず、パソコン本体の電源が入ってない状態で接続してください。

3 スキャナに終端抵抗（ターミネータ）を取り付けます。

内蔵されているものもあります。ディップスイッチなどで設定する必要がある場合もあります。

4 スキャナのドライバをインストールします。

7 USB 機器を接続する

USB 機器を接続して、自分の思い通りのパソコンにしましょう。

必要なものを用意する

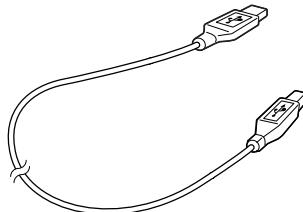
USB 機器を使うには、次のものが必要です。

- USB 機器

Universal Serial Bus という規格の略称です。USB 規格に対応している機器には、次のようなものがあります。お使いになる目的に応じてご用意ください。

- マウス
- キーボード
- プリンタ
- ターミナルアダプタ
- スピーカー
- デジタルカメラ
- スキャナ
- 携帯電話 / PHS

- USB ケーブル



USB 機器とパソコンをつなぐケーブルです。USB 機器に添付されている場合もあります。マウスなどのようにケーブルが固定のものもあります。

- USB 機器のドライバ

通常は USB 機器に添付されています。

- USB 機器のマニュアル

USB 機器を接続する

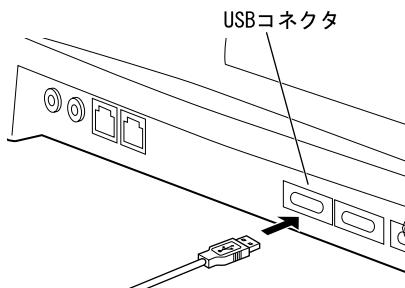
取り付けかたは、次のとおりです。

POINT

- ▶ USB 機器は、パソコン本体の電源を切らなくても抜き差しすることができます。

- 1 パソコン本体背面の USB コネクタに、USB 機器のケーブルを接続します。

USB 機器のケーブルのコネクタの  マークを上に向けて、差し込んでください。



- 2 ドライバをインストールします。

ドライバをインストールしなくても、接続するだけで使える USB 機器もあります。詳しくは、USB 機器のマニュアルをご覧ください。

8 ターミナルアダプタを接続する

ISDN回線に接続して、もっと快適にネットワークを楽しみたい・・・そんなときはターミナルアダプタを接続します。

ISDN回線に接続する方法については、ターミナルアダプタのマニュアルをご覧になるか、NTTにお問い合わせください。

必要なものを用意する

ターミナルアダプタを使うには、次のものが必要です。

- ターミナルアダプタ

ISDN回線に接続するために必要な機器です。このパソコンでは、パソコン本体背面のUSBコネクタ(☞P.14)に接続するターミナルアダプタをお使いになれます。

- 専用ケーブル

ターミナルアダプタとパソコンをつなぐケーブルです。通常、ターミナルアダプタに添付されています。添付されていない場合は、お使いになるターミナルアダプタに合ったケーブルをご購入ください。

- ターミナルアダプタのドライバ

ターミナルアダプタによっては、ドライバが必要なものがあります。ターミナルアダプタに添付されているドライバをご用意ください。

ターミナルアダプタのドライバのフロッピーディスクが数枚添付されている場合は、「Windows98対応」「PC/AT互換機用」などと記載されたものをお使いください。

- ターミナルアダプタのマニュアル

ターミナルアダプタを接続する

パソコン本体側のコネクタについて説明します。

☞ 重要

- 接続方法は、ターミナルアダプタによって異なります。ターミナルアダプタのマニュアルもあわせてご覧ください。

USBコネクタに接続する

「USB機器を接続する」(☞P.42)をご覧ください。

ターミナルアダプタを ISDN 回線に接続するには、DSU（ディーエスユー）という機器が別に必要な場合もあります。また、パソコンで FAX を送受信するには、パソコン本体のモデムとターミナルアダプタをモジュラーケーブルでつなぐ必要があります。詳しくは、ターミナルアダプタのマニュアルをご覧になるか、NTT にお問い合わせください。

9 MD レコーダーを接続する

MD（ミニディスク）レコーダーを接続して、自分だけのオリジナルMDをつくることができます。

必要なものを用意する

MD レコーダーを接続するには、次のものが必要です。

POINT

- ▶ 出力可能な音源はWAVEとMIDIです。出力されるサンプリング周波数は48KHzのみです。音楽CDの音声は、デジタルで出力できません。
- ▶ このパソコンの光デジタルオーディオ出力は、音楽ソフトの著作権を保護するための「シリアルコピーマネジメントシステム」に準拠しています。

- MD

MDは音楽をデジタル情報として記録するディスクで、各社から発売されています。

- MD レコーダー

光デジタル入力が可能なMD レコーダーをお使いいただけます。

再生専用のものはお使いにななりません。録音可能なものをお使いください。

- 光デジタルオーディオケーブル

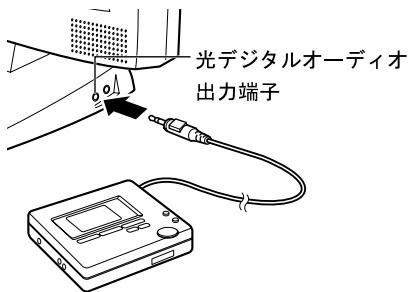
このパソコンでお使いになれる光デジタルオーディオケーブルの組み合わせは次のとおりです。

パソコン側	MD 側
丸形（光ミニプラグ）	丸形（光ミニプラグ）
丸形（光ミニプラグ）	角形（光プラグ）

MD レコーダーを接続する

取り付けかたは次のとあります。

- 1 パソコン本体側面のヘッドホン端子 / 光デジタルオーディオ出力端子と MD レコーダーを光デジタルオーディオケーブルで接続します。



MD に録音する方法については、『ユーザーズガイド』の「楽しさ広がる FMV」をご覧ください。

10 携帯電話やPHSを接続する

携帯電話やPHS(ピーエイチエス)を接続すると、近くに電話回線がなくても自由にインターネットやパソコン通信ができます。

パソコンと携帯電話やPHSを接続するには、接続ケーブル経由でUSBコネクタに接続する方法があります。

必要なものを用意する

- デジタル携帯電話またはPIAFS(ピアフ)対応のPHS
お使いになれる機種については、富士通パソコンホームページ「FM WORLD」
(<http://www.fmworld.net>)をご覧ください。
- 携帯電話接続用USBケーブル
デジタル携帯電話とパソコンを接続します。別売のFMV-CBL101をお使いください。
- PHS接続用USBケーブル
PHSとパソコンを接続します。別売のFMV-CBL102をお使いください。

POINT

- ▶ PIAFS(ピアフ)
PHS Internet Access Forum Standardの略で、PHSによるデジタルデータ通信の標準規格です。PHSのデジタル通信回線(32/64Kbps)を利用して、非常に高速な通信が行えます。ただし、プロバイダやパソコン通信会社のアクセスポイントや端末もPIAFSに対応している必要があります。

○ 重 要

- ▶ 携帯電話やPHSの機種によっては、ディスプレイの近くでお使いになると、画面が乱れる場合があります。故障ではありません。その場合は、ディスプレイからできるだけ離してお使いください。画面への影響が軽減されます。

携帯電話や PHS を接続する

△ 注意



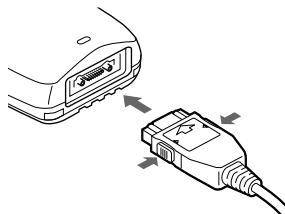
ケーブルは本書および『アプリケーション CD2』の「Update Modem Fjusb」の中の readme.txt をよくお読みになり、正しく接続してください。

誤った接続状態でお使いになると、パソコンおよび携帯電話や PHS が故障する原因となることがあります。

△ 重要

- ▶ 『アプリケーション CD2』の「Update Modem Fjusb」の中の readme.txt を必ずお読みください。
- ▶ 通信アプリケーションが起動している場合は、アプリケーションを終了してからケーブルを接続してください。
- ▶ PHS をケーブルに接続する場合は、Windows が起動した状態で行ってください。
- ▶ 通信するときは、以下の事項に注意してください。
 - ・ 本体内蔵モデムと同時には使えません。
 - ・ 通信中または通信アプリケーションの起動中には、スタンバイ機能は使えません。
 - ・ USB コネクタに接続した携帯電話や PHS どうしでの対向接続はできません。
 - ・ AT コマンドは、電話回線で通信するためのドライバと仕様が異なります。
 - ・ 電波状況によっては、通信が途中で切断される場合があります。

- 1** 接続ケーブルの大きいほうのコネクタを、携帯電話や PHS に接続します。
コネクタの向きに注意して、カチッと止まるまで軽く押し込みます。



- 2** 接続ケーブルのもう一方のコネクタを、パソコン本体の USB コネクタに接続します。
「USB 機器を接続する」(▶ P.42)

このあと、接続した携帯電話や PHS で通信するための設定を行ってください。
設定方法については、『インターネットガイド』の「携帯電話や PHS でインターネットに接続するには」をご覧ください。

POINT

- ▶ 携帯電話接続用 USB ケーブル (FMV-CBL101) を携帯電話から取り外す場合は、コネクタの両側にあるボタンを押しながら引き抜いてください。
- ▶ PHS 接続用 USB ケーブル (FMV-CBL102) を PHS から取り外す場合は、コネクタの上側にあるボタンを押しながら引き抜いてください。

携帯電話や PHS 用のモデムを選択する

重要

- パソコンご購入時には、携帯電話接続用 USB ケーブル、および PHS 接続用 USB ケーブルのドライバは、インストールされていません。
必ず ◎『アプリケーション CD2』の「¥Update¥Modem¥Fjusb」の中のドライバをインストールしてください。
- 別売のケーブルに、◎「FMV-CBL101 / FMV-CBL102 用ドライバ CD V1.0.01」が添付されている場合がありますが、お使いにならないでください。
- 接続ケーブルをお使いになる前に、必ず ◎『アプリケーション CD2』の「¥Update¥Modem¥Fjusb」の中の readme.txt をお読みください。

「接続に使用するモデム」の種類は、お使いの携帯電話または PHS によって異なります。携帯電話や PHS のマニュアルをご覧になり、お使いの機種に対応するモデムを選択してください。

● 携帯電話接続用 USB ケーブル (FMV-CBL101) をお使いになる場合

携帯電話 / Doccimo のモード	モデム
携帯電話 (9600bps、回線交換)	Fujitsu SOFT USB PDC
携帯電話 (28800bps、パケット交換)	Fujitsu SOFT USB PDC-PACKET
Doccimo 携帯電話モード (9600bps、回線交換)	Fujitsu SOFT USB PDC-Doccimo
Doccimo PHS (32K)	Fujitsu SOFT USB PHS-DoCoMo32K-Doccimo
Doccimo PHS (64K)	Fujitsu SOFT USB PHS-DoCoMo64K-Doccimo

● PHS 接続用 USB ケーブル (FMV-CBL102) をお使いになる場合

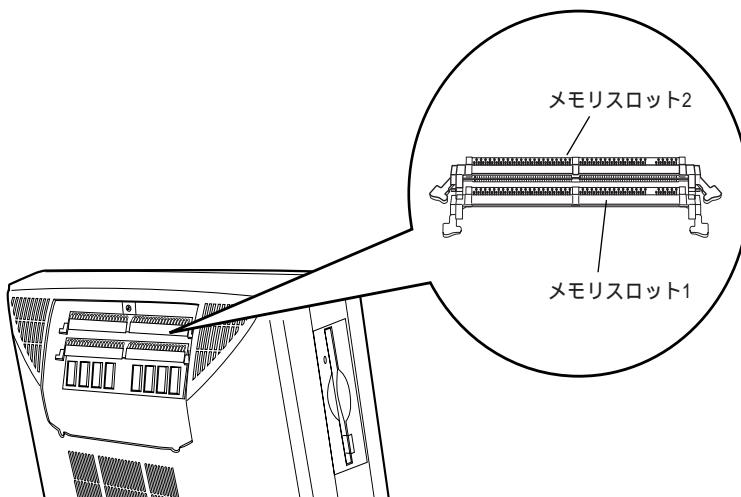
PHS のモード	モデム
NTT DoCoMo PHS 32K	Fujitsu SOFT USB PHS-DoCoMo32K
NTT DoCoMo PHS 64K	Fujitsu SOFT USB PHS-DoCoMo64K

11 メモリを増やす

「複数のアプリケーションを起動したら、パソコンの動作が遅くなつた」「大きなファイルを使おうとするとメモリ不足と表示されてしまう」
このような場合には、パソコンのメモリを増やすと、パソコンの処理がより速く快適になります。

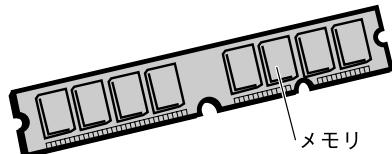
メモリの取り付け場所

メモリは、パソコン本体内部のメモリスロットに取り付けます。
ご購入時は、メモリスロット1に64MBのメモリが1枚取り付けられています。
メモリ容量を増やすには、メモリスロット2に、新たにメモリを取り付けます。
メモリは、最大512MB(256MB×2枚)まで増やせます。
メモリを最大容量まで増やしたいときは、あらかじめ取り付けられているメモリ(メモリスロット1)を取り外して交換します。



取り付けられるメモリ

お使いになれるメモリは次の種類です。



- 種類：SDRAM (エスディーラム) DIMM (ディム)(SPD付き)
- システムバスクロック：100MHz
- ピン数：168ピン
- 容量：64MB、128MB、256MB
- ECC：なし

☞ 重要

- ▶ メモリのシステムバスクロックにご注意ください。このパソコンに取り付けるメモリは、100MHz対応のものをお使いください。

○ POINT

- ▶ SPD (エスピーディー)
Serial Presence Detectの略で、メモリの機能のひとつです。
必ずSPD付きのメモリをご購入ください。なお、弊社製のSDRAMは、SPD付きです。
- ▶ ECC (イーシーシー)
Error Correcting Codeの略で、データの中の誤りを検出し、訂正する機能のことです。
このパソコンでは使いません。

メモリの組み合わせ表

次の表で、メモリの容量とメモリスロットの組み合わせを確認してください。メモリを増やす容量によっては、あらかじめ取り付けられているメモリ（メモリスロット1）を取り外して大容量のメモリに交換します。表以外の組み合わせにすると、パソコンが正常に動作しない場合があります。

総容量	メモリスロット1	メモリスロット2
64MB（ご購入時）	64MB	なし
128MB	64MB	64MB
128MB	128MB	なし
192MB	64MB	128MB
256MB	128MB	128MB
256MB	256MB	なし
320MB	64MB	256MB
384MB	128MB	256MB
512MB（最大）	256MB	256MB

：あらかじめ取り付けられているメモリを交換します。

メモリを取り付ける

ここでは、メモリを取り付ける方法を説明します。

あらかじめ取り付けられているメモリを、大容量のメモリに交換するときは、「[メモリを交換する](#)」（[P.58](#)）をご覧ください。

⚠ 警告

感 電



- メモリの取り付けまたは交換を行うときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。
感電・火災または故障の原因となります。
- 取り外したネジなどの小さな部品は、小さなお子様が誤って飲み込むと窒息の原因となります。保護者の方は、小さなお子様の手の届かないところに置くように注意してください。
万一飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。

誤 飲



△ 注意



- メモリの取り付けまたは交換を行うときは、指定された場所以外のネジは外さないでください。

指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



- 基板表面上の突起物には手を触れないでください。

けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



- メモリは、弊社純正品をお使いください。

純正品以外のメモリをお使いになると、故障の原因となることがあります。

- メモリを取り付けるときは、メモリの差し込み方向をお確かめのうえ、確実に差し込んでください。誤ってメモリを逆方向に差したり、差し込みが不完全だったりすると、故障の原因となることがあります。

△ 重要

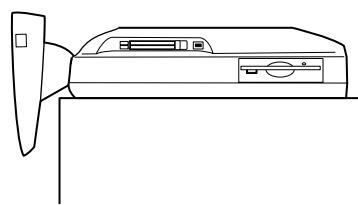
- ▶ メモリは人体にたまる静電気によって悪影響を受けます。
取り扱う前に、一度大きな金属質のものに手を触れるなどして静電気を放電してください。
- ▶ メモリは何度も抜き差ししないでください。故障の原因となることがあります。
- ▶ メモリは下図のようにふちを持ってください。金色の線が入っている部分（端子）には、絶対に手を触れないでください。



1 パソコン本体と接続されている周辺機器の電源を切り、電源ケーブルをコンセントから抜きます。

2 パソコン本体を横にします。

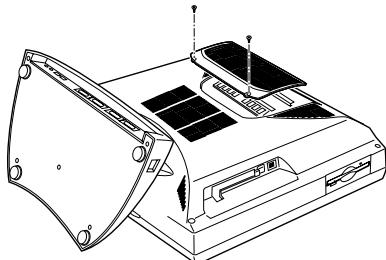
図のように、背面が上になるようにします。テーブルの端などをを利用して、パソコン本体が水平になるようにしてください。



※ 重 要

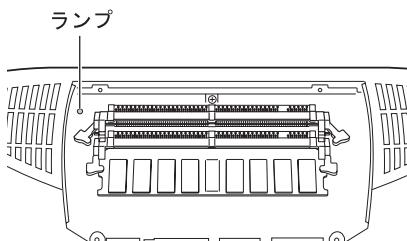
- ▶ パソコンを横にするときは、作業はやわらかい布などを敷いた平坦な台の上で行ってください。とくに、液晶ディスプレイに突起物などがあたらないようにしてください。

3 メモリカバーのネジ（2カ所）を外し、メモリカバーを取り外します。



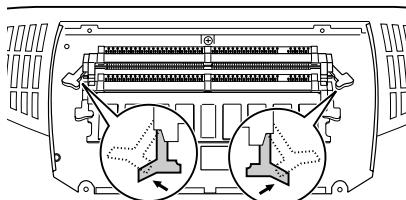
※ 重 要

- ▶ 下図のランプが消えていることを確認してください。ランプが点灯している場合、電源を切り、電源ケーブルを抜いてから作業を再開してください。



4 メモリを取り付けるメモリスロットの両側のレバーを外側に開きます。

メモリの取り付け場所については、「[メモリの取り付け場所](#)」(▶P.51)をご覧ください。
メモリの容量と組み合わせについては、「[メモリの組み合わせ表](#)」(▶P.53)をご覧ください。

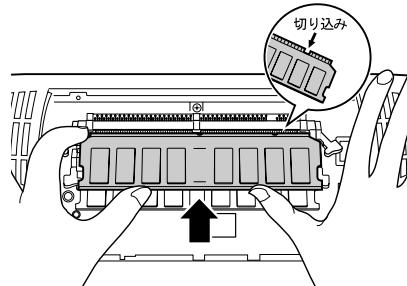


5 メモリをメモリスロットに差し込みます。

端子に切り込みが入っている方を右側に向けて、メモリスロット正面からまっすぐに差し込んでください。

メモリがメモリスロットに差し込まれると、スロット両側のレバーが自動的に閉じて、メモリがロックされます。

必ず、メモリがロックされたことを確認してください。

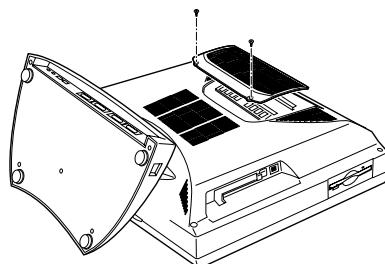


重要

- メモリの方向をよく確認して正しく差し込んでください。無理に差し込むと故障の原因となります。

6 手順3で外したネジ(2カ所)で、メモリカバーを取り付けます。

ネジは固く締めすぎないようにしてください。



7 パソコン本体を立てます。

メモリ容量を確認する

メモリを取り付けたあと、増やしたメモリがパソコンで使える状態になっているかを確認してください。

必ず、メモリカバーを取り付けてから確認作業を行ってください。

1 パソコン本体の電源を入れます。

 **POINT**

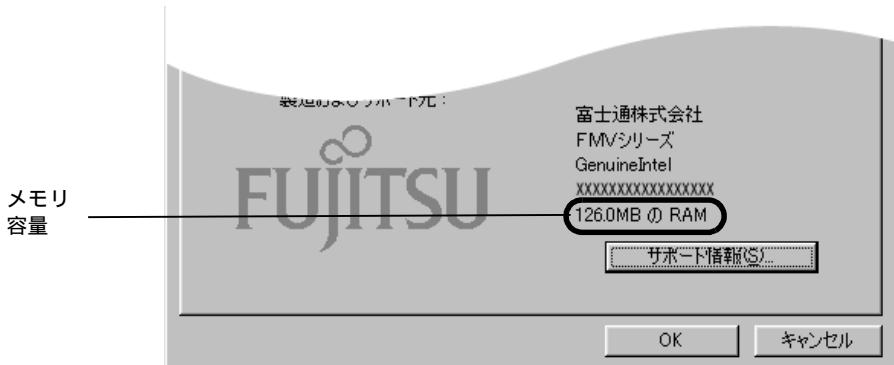
- ▶ メモリが正しく取り付けられていないと、パソコンの電源を入れたとき画面に何も表示されない場合があります。
その場合は、電源スイッチを 4 秒以上押し続けてパソコンの電源を切り、電源プラグを抜いたあと、メモリを取り付け直してください。
メモリの取り外しかたについては、「[メモリを交換する](#)」([P.58](#))をご覧ください。

2 「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」の順にクリックします。

3  (システム) をクリックします。

「システムのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

4 で囲んだ部分の数値が、増やしたメモリの分だけ増えているかを確認します。



画面は、64MB 搭載のパソコンに 64MB のメモリを増設して、128MB に増やした例です。
お使いのシステム構成によっては 2MB 少なく表示される場合があります。
表示される画面は、機種ごとに異なる場合があります。

5 「OK」をクリックします。

6 「コントロールパネル」ウィンドウの をクリックします。

メモリ容量の数値が増えていなかった場合は、次のことを確認してください。

- 増やしたメモリがパソコンで使える種類のものか... 「[取り付けられるメモリ](#)」([P.52](#))
- メモリがメモリスロットにきちんと差し込まれているか... 「[メモリを取り付ける](#)」([P.53](#))
- 正しいスロットに取り付けられているか... 「[メモリの取り付け場所](#)」([P.51](#))
- メモリを正しく組み合わせているか... 「[メモリの組み合わせ表](#)」([P.53](#))

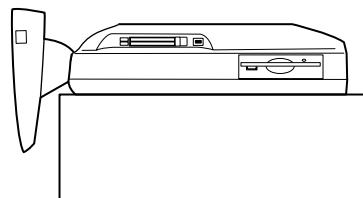
メモリを交換する

パソコンに取り付けられているメモリを取り外し、より大容量のメモリに交換することができます。

1 パソコン本体と接続されている周辺機器の電源を切り、電源ケーブルをコンセントから抜きます。

2 パソコン本体を横にします。

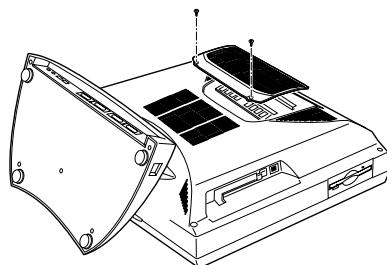
図のように、背面が上になるようにします。テーブルの端などを利用して、パソコン本体が水平になるようにしてください。



重要

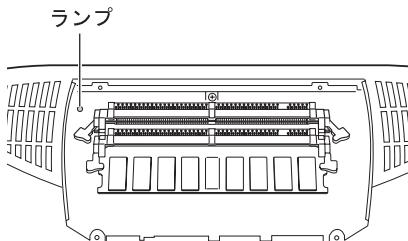
- ▶ パソコンを横にするときは、やわらかい布などを敷いた平坦な台の上で行ってください。とくに、液晶ディスプレイに突起物などがあたらないようにしてください。

3 メモリカバーのネジ（2カ所）を外し、メモリカバーを取り外します。

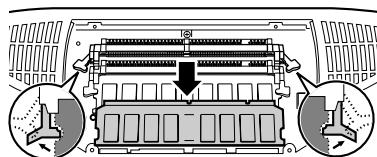


※ 重 要

- 下図のランプが消えていることを確認してください。ランプが点灯している場合、電源を切り、電源ケーブルを抜いてから作業を再開してください。



- 4** メモリスロットの両側のフックを外側へ開いて、メモリを引き抜きます。



※ 重 要

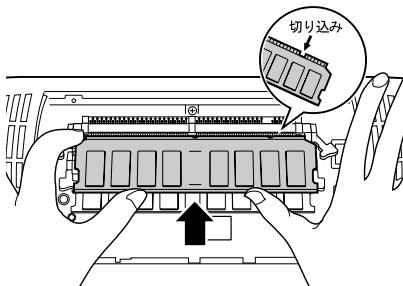
- フックを勢いよく外側へ開くと、メモリが飛び出し、故障の原因となることがありますので、ご注意ください。

- 5** 新しいメモリをメモリスロットに差し込みます。

端子に切り込みが入っている方を右側に向けて、メモリスロット正面からまっすぐ差し込んでください。

メモリがメモリスロットに差し込まれると、スロット両側のレバーが自動的に閉じて、メモリがロックされます。

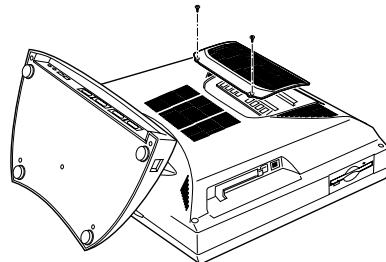
必ず、メモリがロックされたことを確認してください。



重要

- ▶ メモリの方向をよく確認して正しく差し込んでください。無理に差し込むと故障の原因となります。

- 6** 手順3で外したネジ(2カ所)で、メモリカバーを取り付けます。
ネジは固く締めすぎないようにしてください。



- 7** パソコン本体を立てます。

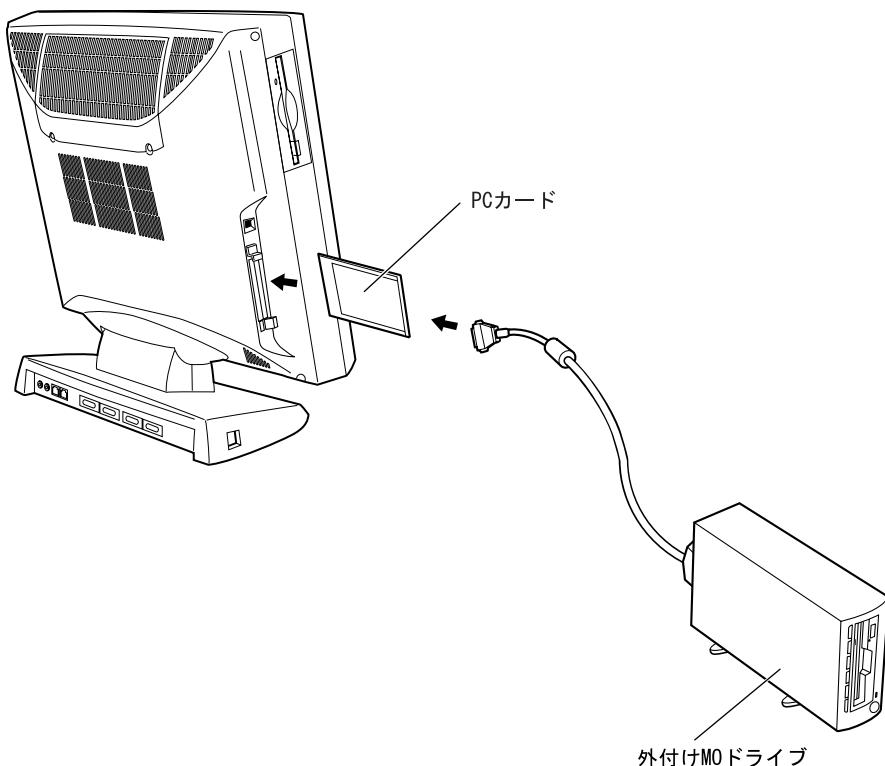
このあと、「メモリ容量を確認する」(▶ P.56)をご覧になり、交換したメモリが使える状態になっているかを確認してください。

12 MO ドライブを増設する

MO (エムオー) ドライブとは、レーザーと磁気で MO (光磁気ディスク) にデータを書き込み、レーザーで読み出しを行う記憶装置です。MO は、フロッピーディスクと比べて、大量のデータを保存できます。

お使いになれる MO ドライブ

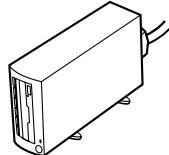
MO ドライブには、パソコン本体に内蔵のものと、外付けのものがあります。このパソコンでは、SCSI 規格の外付け MO ドライブを増設できます。内蔵 MO ドライブはお使いになられません。SCSI 規格の MO ドライブを使うには、PC カードタイプの SCSI カードが必要です。



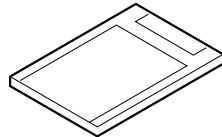
必要なものを用意する

外付け MO ドライブを取り付けるときには、次のものが必要です。

- SCSI 規格の外付け MO ドライブ

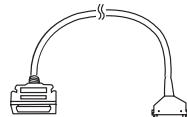


- SCSI カード



SCSI 規格の外付け MO ドライブを取り付けるときに必要な PC カードです。

- SCSI ケーブル



SCSI カードと外付け MO ドライブを取り付けるときに必要なケーブルです。SCSI 規格のコネクタには数種類あります。お使いになる SCSI カードと外付け MO ドライブに合ったものをよくご確認のうえご購入ください。

- 終端抵抗(ターミネータ)



電気信号が、SCSI ケーブルを正しく伝わるようにするためのものです。外付け MO ドライブには、別売の終端抵抗を取り付けます。SCSI 規格のコネクタは数種類あります。コネクタの形状をご確認のうえご購入ください。詳しくは次の POINT「[終端抵抗\(ターミネータ\)](#)」(☞P.63)をご覧ください。

- MO

128MB、230MB、540MB、640MB、1.3GB の容量のものが市販されています。フロッピーディスクと同じように、フォーマットしてからお使いください。お使いになる MO ドライブによって、対応している容量が異なります。お使いになる目的に応じた容量の MO ドライブをご購入ください。

- 外付け MO ドライブと SCSI カードのマニュアル

POINT

▶ 終端抵抗（ターミネータ）

SCSI 規格のオプション機器は数珠つなぎに接続できます。その際、両端となる機器にそれぞれ終端抵抗を取り付ける必要があります。

たとえば、SCSI 規格の外付け MO ドライブを 1 台増設した場合は、SCSI カードと外付け MO ドライブが両端となります。

SCSI カードには、通常、終端抵抗が内蔵されていますので、終端抵抗を新たに取り付ける必要はありません。ただし、SCSI カード上に添付されているユーティリティソフトなどで、終端抵抗を有効、または無効に設定する必要のあるものもあります。

外付け MO ドライブを取り付ける

△ 警告



- 外付け MO ドライブの取り付けや取り外しを行うときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。
感電の原因となります。
- 取り外したネジなどの小さな部品は、小さなお子様が誤って飲み込むと窒息の原因となります。保護者の方は、小さなお子様の手の届かないところに置くように注意してください。
万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。

△ 注意



- ケーブルは正しく接続してください。誤った接続状態でお使いになると、パソコン本体が故障する原因になります。
- 外付け MO ドライブは、弊社純正品をお使いください。
純正品以外の MO ドライブをお使いになると、故障の原因となることがあります。
- 外付け MO ドライブの取り付けや取り外しを行うときは、指定された場所以外のネジは外さないでください。
指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

1 外付け MO ドライブと SCSI カードの SCSI ID を設定します。

SCSI 規格では複数の機器を接続できます。それらの機器を区別するために付ける番号が「SCSI ID」です。SCSI ID は 0 から 7 番までの番号があります。

SCSI カードには、通常 7 番が設定されています。SCSI ID が設定されていない SCSI カードをお使いになるときは、SCSI ID を 7 番に設定してください。

外付け MO ドライブは、それ以外の番号（0 ~ 6 番）を設定してください。

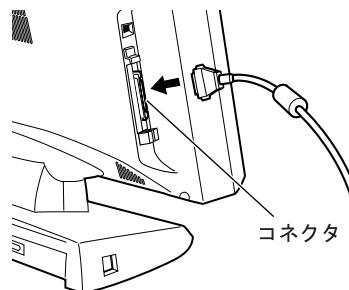
設定のしかたについては、SCSI カードと外付け MO ドライブのマニュアルをご覧ください。

2 SCSI カードをセットします。

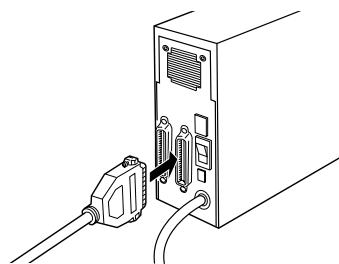
取り付けかたなどについては、「[PC カードをセットする](#)」（[P.30](#)）をご覧ください。

3 SCSI カードのコネクタに、SCSI ケーブルを接続します。

SCSI ケーブルの片方のコネクタを、パソコン本体側面にある SCSI カードのコネクタに接続します。必ず、パソコン本体の電源が入っていない状態で接続してください。



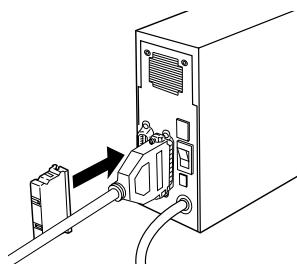
4 外付け MO ドライブの IN コネクタに、SCSI ケーブルのもう片方のコネクタを接続します。



POINT

▶ 外付け MO ドライブによってはコネクタに IN/OUT の指定がないものもあります。そのときは、どちら側に接続してもかまいません。

5 外付け MO ドライブの OUT コネクタに終端抵抗を取り付けます。



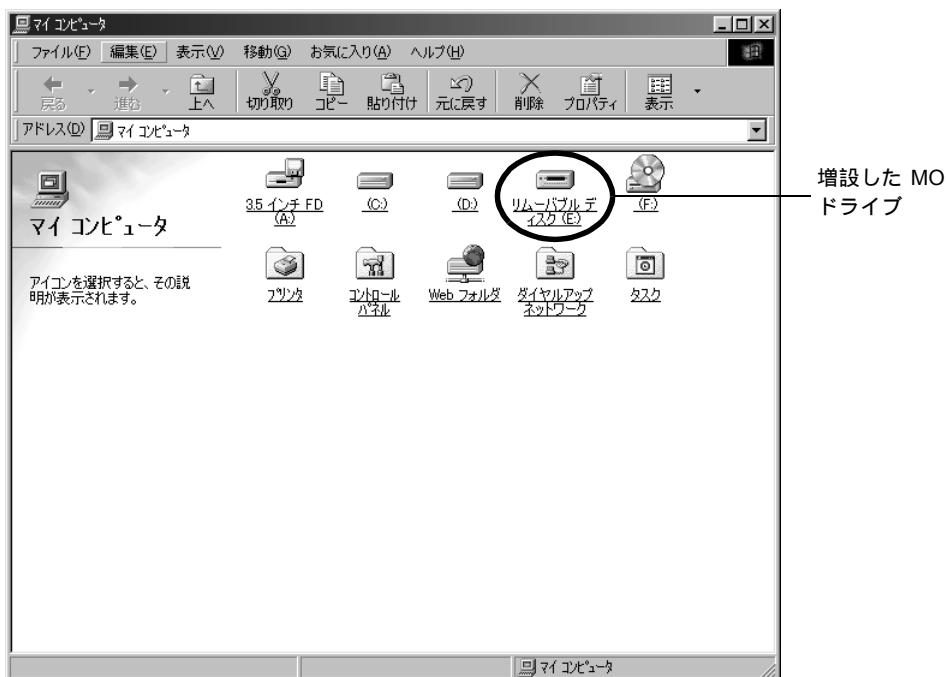
6 外付け MO ドライブに電源ケーブルを接続します。

外付け MO ドライブに電源ケーブルがつながっている場合もあります。詳しくは、外付け MO ドライブのマニュアルをご覧ください。

7 パソコンと、接続されている機器、接続した外付け MO ドライブの電源プラグをコンセントに差し込みます。

MO ドライブを増設すると

MO ドライブを増設すると、ドライブ名が変更されます。DVD-ROM ドライブのドライブ名も変更されます。



ドライブ名はお使いの状況によって異なります。
この画面は、MO ドライブを 1 台増設した場合です。

13 ハードディスクを増設する

パソコンを使い込んでいくうちに、アプリケーションをたくさんインストールしたり、容量の大きな画像データなどをたくさん保存したりして、あらかじめ取り付けられているハードディスクの空き容量が少なくなることがあります。そのようなときには、ファイルやデータを整理して空き容量を増やすのも 1 つの方法ですが、さらに別売のハードディスクを増設して、保存できる容量を増やすという方法もあります。

このパソコンにはあらかじめ IDE 規格のハードディスクが 1 台内蔵されています。さらに、PC カードタイプの SCSI カードを取り付けることにより、SCSI 規格の外付けハードディスクを増設できます。

必要なものを用意する

△ 注意



- ハードディスクは、弊社純正品をお使いください。
純正品以外のハードディスクをお使いになると、故障の原因となることがあります。

ハードディスクを使うには、次のものが必要です。

● SCSI 規格の外付けハードディスク

ハードディスクには、パソコン本体に内蔵のものと、外付けのものがあります。このパソコンでは、外付けハードディスクが取り付けられます。内蔵ハードディスクはお使いになれません。

● SCSI カード (PC カードタイプ) SCSI ケーブル、終端抵抗 (ターミネータ)

外付けハードディスクを使うために必要なものです。

終端抵抗 (ターミネータ) は、内蔵されている場合もあります。

SCSI カード、SCSI ケーブル、終端抵抗 (ターミネータ) については、「[MO ドライブを増設する](#)」の「[必要なものを用意する](#)」([P.62](#)) をご覧ください。

○ POINT

- ▶ IDE (アイディーイー)
ハードディスクや DVD ドライブ、CD-ROM ドライブなどの内蔵ドライブの規格の 1 つです。

ハードディスクを使うには

SCSI 規格の外付けハードディスクを使うには、PC カードタイプの SCSI カードをパソコン本体側面の PC カードスロットにセットします。詳しくは、「[PC カードをセットする](#)」(▶P.30)をご覧ください。

パソコンの電源を切り、SCSI カードを取り付けたあと、SCSI ケーブルで SCSI カードと外付けハードディスクをつなぎます。外付けハードディスクには、終端抵抗(ターミネータ)という器具を取り付けます。接続方法などについては、「[MO ドライブを増設する](#)」(▶P.61)を参考にしてください。また、外付けハードディスクのマニュアルもあわせてご覧ください。取り付けた外付けハードディスクを使えるようにするためには、「領域を設定する」と「フォーマットする」作業が必要になります。

ハードディスクの領域を設定する

領域について

あらかじめ取り付けられている内蔵ハードディスクは、ご購入時には C ドライブと D ドライブに区切られています。区切ったそれぞれのことを「領域」といいます。

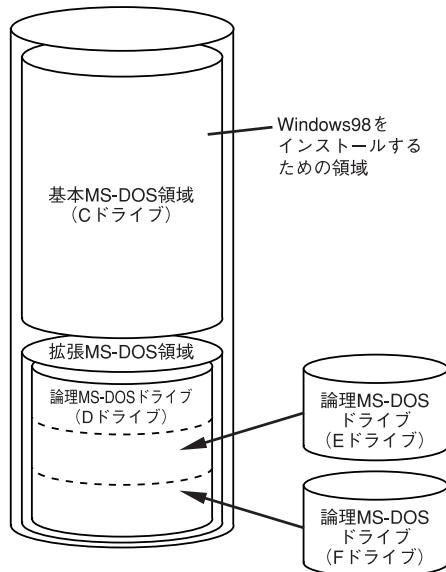
ハードディスクの C ドライブにあたる部分を「基本 MS-DOS 領域」といい、Windows98 がインストールされています。

C ドライブ以外の領域は、すべて「拡張 MS-DOS 領域」といいます。ただし、実際に「拡張 MS-DOS 領域」を使うには、この中に「論理 MS-DOS ドライブ」というものを作成する必要があります。D ドライブは、この「論理 MS-DOS ドライブ」にあたります。

ご購入時には、「拡張 MS-DOS 領域」の中に「論理 MS-DOS ドライブ」が 1 つだけ作られています。このドライブを区切り直して複数の「論理 MS-DOS ドライブ」を作成すると、D ドライブ、E ドライブ… というように複数のドライブとして利用できます。

また、増設したハードディスクを使えるようにするには、領域を設定する必要があります。

ハードディスクは工夫して使えば、データの管理なども自分好みに管理することができます。ハードディスクを複数のドライブに設定するためには、領域の設定をする必要があります。



「拡張MS-DOS領域」の中には、複数の「論理MS-DOS ドライブ」を作成できます。この場合、E ドライブ、F ドライブ…というように順番にドライブ名が追加されます。

領域を設定する

ここでは、ハードディスクを1台増設した場合の領域の設定のしかたを説明します。使っているハードディスクの領域を設定し直す場合は、手順の途中で領域を削除してください。

重要

- ▶ ハードディスクを増設したあと、本書の手順に従って領域の設定を行うと、E ドライブ以降（基本 MS-DOS 領域を作成する場合は D ドライブ以降）のドライブ名が変更されます。DVD-ROM ドライブのドライブ名も変更されます。お使いのソフトウェアによっては、ドライブ名の修正が必要になることがあります。詳しくは、ソフトウェアのマニュアルをご覧ください。
- ▶ 領域を設定し直すと、そのハードディスクに保存されていたデータは失われてしまいます。使っていたハードディスクの領域を設定し直すときは、フロッピーディスクや他のハードディスクなどにバックアップをとるなどしてから、領域を設定してください。

POINT

- ▶ 作業をはじめる前に、ハードディスクの全容量をご確認のうえ、どのように領域を区切るかを考えてから、設定することをお勧めします。

- 1** 外付けハードディスクの電源を入れ、次にパソコン本体の電源を入れます。
- 2** アプリケーションを終了させ、スクリーンセーバーを解除します。
タスクバーにアイコン表示されている、常駐しているアプリケーションも終了させてください。
- 3** 「スタート」ボタン 「プログラム」 「MS-DOS プロンプト」の順にクリックします。
- 4** 「C:¥WINDOWS>」に続けて「fdisk」と入力し、[Enter] を押します。
「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか？」というメッセージが表示されます。
- 5** [Y] を押して、[Enter] を押します。
- 6** [5] を押して「5. 現在のハードディスクドライブを変更」を選び、[Enter] を押します。
「ハードディスクドライブの番号を入力してください」というメッセージが表示されます。

POINT

- ▶ 「5. 現在のハードディスクドライブを変更」が表示されていないときは、領域の設定を中断します。

1 **[Esc]** を押します。

「C:\WINDOWS>」と表示されます。

2 「MS-DOS プロンプト」ウィンドウの **[X]** をクリックします。

「MS-DOS プロンプト」ウィンドウを全画面表示しているときは、「exit」と入力し、**[Enter]** を押してください。

このあと、パソコンの電源を切り、次のことを確認してください。

- ・ ハードディスクが正しく接続されているか

- ・ 外付けハードディスクの電源が入っているか

確認したあと、再び手順1([P.69](#)) から操作してください。

上記のことを確認しても「5. 現在のハードディスクドライブを変更」が表示されないときは、増設したハードディスクを Windows98 が認識していない可能性があります。次の手順に従って確認してください。

1 「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」の順にクリックします。

2  (システム) をクリックし、「デバイスマネージャ」タブの順にクリックします。

3 「ディスクドライブ」の **[+]** をクリックし、増設したハードディスクをクリックします。

「ディスクドライブ」内の「GENERIC IDE DISK TYPEXX」と「GENERIC XXX FLOPPY DISK」と表示されている以外のものが増設したハードディスクです。

4 「プロパティ」をクリックし、「設定」タブをクリックします。

5 「オプション」欄の「Int13 ユニット」が **[]** になっていることを確認し、「OK」をクリックします。

[] になっているときは、**[]** をクリックして **[]** にし、「OK」をクリックしてください。

6 「OK」または「閉じる」をクリックします。

「システム設定の変更」ウィンドウが表示された場合は、「はい」をクリックしてパソコンを再起動してください。

7 再び手順2([P.69](#)) から操作します。

- ▶ ハードディスクなどの周辺機器を増設する台数によって、以降の画面や、手順のドライブ名、ハードディスクの番号は異なる場合があります。

7 設定したいハードディスクを選び、**[Enter]** を押します。

ディスク1は、あらかじめ取り付けられているハードディスクです。

ディスク2以降が増設したハードディスクです。

8 領域を設定し直す場合、領域を削除します。

「領域を削除する」([P.72](#))

9 「現在のハードディスク」が手順7で選んだ数字になっていることを確認し、**[1]** を押して「1. MS-DOS 領域または論理 MS-DOS ドライブを作成」を選び、**[Enter]** を押します。

10 **[2]** を押して「2. 拡張 MS-DOS 領域を作成」を選び、**[Enter]** を押します。

「ディスクの総容量は ... 拡張 MS-DOS 領域を作ります .」というメッセージが表示されます。

ハードディスクのすべてを拡張 MS-DOS 領域に設定する場合、増設したハードディスクによっては、「領域に割り当て可能な最大領域」が「ディスクの総容量」より少なく表示される場合があります。

11 **[Enter]** を押します。

「拡張 MS-DOS 領域を作成しました .」というメッセージが表示されます。

12 **[Esc]** を押します。

13 ここでは、ハードディスクの領域を分けるか分けないかによって、操作手順が異なります。

- ・領域を分けない場合

[Enter] を押して、「拡張 MS-DOS 領域の使用可能な領域はすべて論理ドライブに割り当てられています .」というメッセージが表示されたら手順 15 へ進みます。

- ・領域を分ける場合

1 つ目の領域に設定したい容量を数字キーで入力し、**[Enter]** を押します。「論理 MS-DOS ドライブを作成しました . ドライブ名は変更または追加されました .」というメッセージが表示されます。

14 2 つ目の領域に設定したい容量を数字キーで入力し、**[Enter]** を押します。

この手順を繰り返すと、さらに領域を分けることができます。

表示されている数値を確認し、そのまま **[Enter]** を押してもかまいません。表示されている数値が、分けた領域の容量となります。

領域をすべて分け終わると、「拡張 MS-DOS 領域の使用可能な領域はすべて論理ドライブに割り当てられています .」というメッセージが表示されます。

POINT

▶ 容量を入力するとき、単位は「MB」または「%」で入力してください。「MB」で指定する場合は「XXXX」と数字のみを入力します。「%」で指定する場合は、「XX%」と単位を付けて入力します。

画面に表示されている「割り当て可能な最大領域」の数値を目安に、それ以下の数値を入力してください。「MB」で指定した場合は、入力した値と画面に表示される値が若干異なることがあります。

15 **[Esc]** を押します。

16 **[Esc]** を押します。

「変更を有効にするには、コンピュータを再起動してください .」というメッセージが表示されます。

17 **[Esc]** を押します。

「C.¥WINDOWS>」と表示されます。

18 「MS-DOS プロンプト」ウィンドウの **[X]** をクリックします。

「MS-DOS プロンプト」ウィンドウを全画面表示しているときは、「exit」と入力し、**[Enter]** を押してください。

「MS-DOS プロンプト」ウィンドウが閉じます。

19 「スタート」ボタン 「Windows の終了」の順にクリックします。

20 「再起動する」をクリックし、**[OK]** にします。

21 「OK」をクリックします。

パソコンが再起動します。

続いて、増設したハードディスクをフォーマットします。「[フォーマットする](#)」([P.74](#))をご覧ください。

領域を削除する

ハードディスクの領域を設定し直すには、すでに設定されている領域を削除しなければなりません。ただし、領域を設定し直すと、ハードディスクに保存されていたデータは消去されます。

1 「[領域を設定する](#)」の手順 1 ~ 7 ([P.69](#)) の作業を行います。

2 「現在のハードディスク」が領域を削除したいドライブになっていることを確認します。

3 **[3]** を押して「3. 領域または論理 MS-DOS ドライブを削除」を選び、**[Enter]** を押します。

4 **[3]** を押して「3. 拡張MS-DOS領域内の論理ドライブを削除」を選び、**[Enter]** を押します。

5 「Drv」の下に表示されているドライブ名（アルファベット 1 文字）を入力し、**[Enter]** を押します。

領域を削除する増設ハードディスクの領域が 2 つ以上に分かれている場合は、「Drv」の下にドライブ名（アルファベット）が複数表示されています。そのうちのどのドライブ名を入力してもかまいません。残りのドライブは、あとで選べます。

6 「ボリュームラベルを入力してください」というメッセージが表示されます。

- 画面上部の「ボリュームラベル」の下に何も表示されていない場合
そのまま **[Enter]** を押します。

- 画面上部の「ボリュームラベル」の下に文字や記号が表示されている場合
表示されている文字や記号を入力し、**[Enter]** を押します。

7 「よろしいですか (Y/N)」というメッセージが表示されたら、**[Y]** を押し、**[Enter]** を押します。

「Drv」の下に表示されているドライブ名(アルファベット)の右横に「ドライブを削除しました.」というメッセージが表示されます。

8 ここでは、領域を削除する増設ハードディスクの領域が分かれているかいないかによって、行う手順が異なります。

- 領域が分かれていらない場合

画面下に「拡張 MS-DOS 領域の論理ドライブはすべて削除されました.」というメッセージが表示されているのを確認し、**[Esc]** を押します。

- 領域が分かれている場合

手順 5 ~ 7 を繰り返し、ドライブを削除します。「Drv」の下に表示されているすべてのドライブ名(アルファベット)の右横に「ドライブを削除しました.」というメッセージが表示され、画面下に「拡張 MS-DOS 領域の論理ドライブはすべて削除されました.」というメッセージが表示されたことを確認します。その後、**[Esc]** を押します。

9 「論理ドライブは定義されていません.」というメッセージが表示されたら、**[Esc]** を押します。

10 **[3]** を押して「3. 領域または論理 MS-DOS ドライブを削除」を選び、**[Enter]** を押します。

11 **[2]** を押して「2. 拡張 MS-DOS 領域を削除」を選び、**[Enter]** を押します。

12 **[Y]** を押して、**[Enter]** を押します。

13 「拡張 MS-DOS 領域を削除しました.」というメッセージが表示されたら、**[Esc]** を押します。

基本 MS-DOS 領域が作成されている増設ハードディスクの領域を削除するときは、このあと基本 MS-DOS 領域も削除してください。

続いて、領域を削除した増設ハードディスクの領域を設定し直します。「領域を設定する」の手順 9 ([P.70](#)) から作業を行ってください。

POINT

- ▶ ハードディスク増設時のドライブ名の割り当て

ハードディスクを増設して領域の設定を行うと、ドライブ名が変更されます。パソコンにハードディスクを1台増設した場合、以下の表の通りの順番でドライブ名が割り当てられます。

ドライブ名(ア)は増設ハードディスクの領域を分けなかった場合、ドライブ名(イ)は増設ハードディスクの領域を2つに分けた場合です。

割り当て順	ドライブ	ドライブ名(ア)	ドライブ名(イ)	備考(FDISKとの対応)
1	「ご購入時に内蔵されているハードディスク」の1つ目の領域	C	C	ハードディスク1の基本MS-DOS領域
2	「ご購入時に内蔵されているハードディスク」の2つ目の領域	D	D	ハードディスク1の論理MS-DOS領域
3	「増設したハードディスク」の1つ目の領域	E	E	ハードディスク2の基本MS-DOS領域
4	「増設したハードディスク」の2つ目の領域	-	F	ハードディスク2の論理MS-DOS領域
5	DVD-ROMドライブ	F	G	-

- ・増設ハードディスクの領域を3つ以上に分けた場合は、割り当て順4番と5番の間に増設ハードディスクの3つ目以降の領域が割り当てられ、最後にDVD-ROMドライブが割り当てられます。
 - ・増設ハードディスクの基本MS-DOS領域を作成した場合は、通常は割り当て順1番と2番の間に増設ハードディスクの1つ目の領域(ハードディスク2の基本MS-DOS領域)が入り、ドライブ名「D」が割り当てられます。
- お使いのソフトウェアによっては、ドライブ名の修正が必要になることがあります。詳しくは、ソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

フォーマットする

領域の設定を行ったあとに、フォーマットする必要があります。フォーマットすると、増設したハードディスクにデータを読み書きできるようになります。

また、フォーマット済みのものを増設した場合も、領域を設定し直すとフォーマットが無効になります。あらためてフォーマットし直してください。

重要

- ▶ ハードディスクのフォーマットを行うと、そのハードディスクの内容はすべて失われます。あらかじめ取り付けられているハードディスクを誤ってフォーマットしないようご注意ください。

1 アプリケーションを終了させ、スクリーンセーバーを解除します。

タスクバーにアイコン表示されている、常駐しているアプリケーションを終了させてください。

2 デスクトップの  (マイコンピュータ) をクリックします。

3 増設したハードディスクの  (ドライブ) にマウスポインタを合わせます。

マウスポインタが  から  に変わり、選んだドライブのアイコンが反転表示されます。



増設したハードディスクのドライブ名は、領域の設定でハードディスクの領域をいくつに分けたかによって異なります。

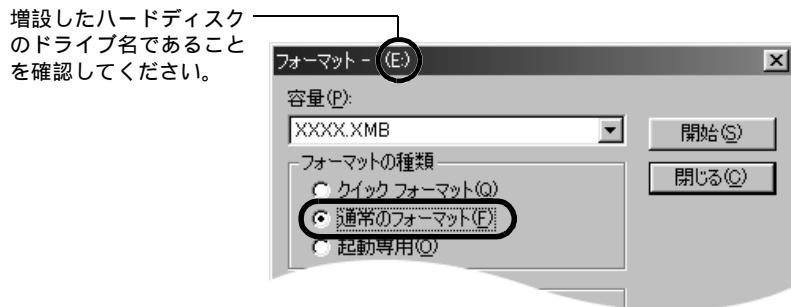
上の画面は、ハードディスクを1台増設し、本書の手順に従って、増設したハードディスクの領域（拡張MS-DOS領域）を2つに分けた場合です。

△ 重 要

- どのドライブが増設したハードディスクのものか調べてください。フォーマットされていないハードディスクの  (ドライブ) のアイコンを反転表示させたとき、「マイコンピュータ」ウィンドウの左端のローカルディスクの欄は何も表示されません。あらかじめ取り付けられていたハードディスクの  (ドライブ) のアイコンを反転表示させると、ローカルディスクの欄に円グラフが表示されます。
- 増設したハードディスクのドライブのアイコンをクリックしてしまうと、「アクセスできません。」というメッセージが表示されます。メッセージが表示されたら「キャンセル」をクリックしてください。

4 「ファイル」メニュー 「フォーマット」の順にクリックします。

- 5 「フォーマットの種類」の「通常のフォーマット」をクリックして  にし、「開始」をクリックします。



- 6 「OK」をクリックします。

フォーマットが始まります。

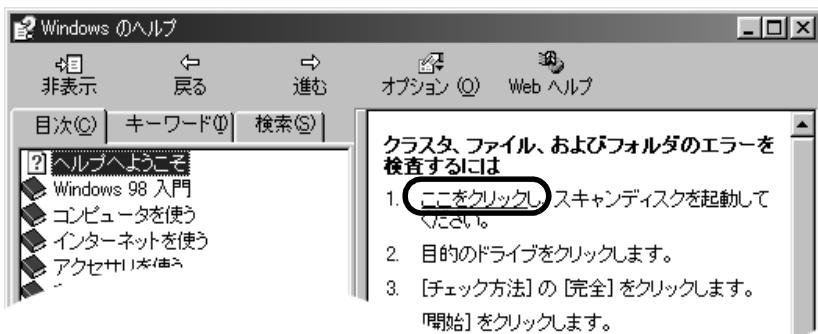
- 7 フォーマット結果を確認したあと、「閉じる」をクリックします。

- 8 「OK」をクリックします。

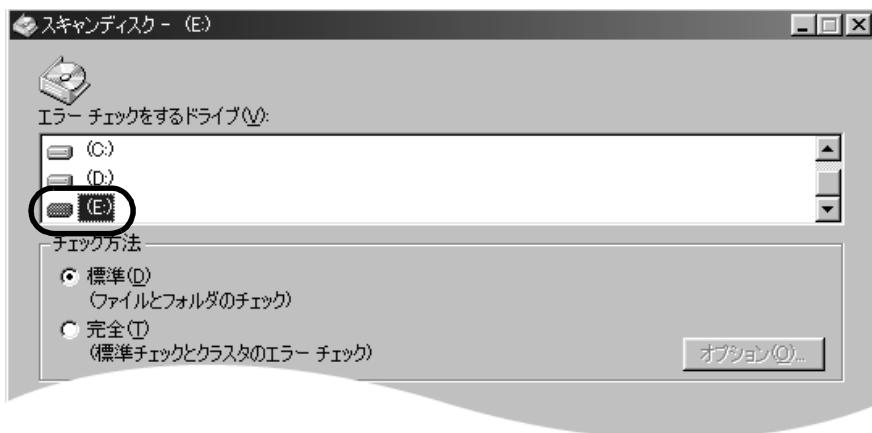
- 9 増設したハードディスクに、スキャンディスクを実行します。

スキャンディスクは、ディスクの表面にエラーがないかを調べます。

ヘルプ画面の「ここをクリック」をクリックしてください。



10 「エラーチェックをするドライブ」でチェックするドライブを選びます。



11 「チェック方法」の「完全」をクリックして にし、「開始」をクリックします。スキャンディスクが始まります。しばらくすると、スキャンディスクが終了し、「結果レポート」が表示されます。

12 「結果レポート」ウィンドウの内容を確認し、「閉じる」をクリックします。

POINT

- ▶ スキャンディスクの途中で、ハードディスクにエラーが検出された場合は、画面の指示に従ってエラーを修復してください。

13 「スキャンディスク」ダイアログボックス「閉じる」をクリックします。

14 「Windows のヘルプ」ウィンドウの をクリックします。

15 「フォーマット」ダイアログボックスの「閉じる」をクリックします。

領域を 2 つ以上に分けたときは、手順 3 ~ 15 を繰り返し、増設したハードディスクのすべての領域をフォーマットしてください。

16 「マイコンピュータ」ウィンドウの をクリックします。

第3章

BIOS セットアップ

BIOS セットアップの設定方法や、パスワードの設定方法などについて説明しています。

BIOS セットアップは、パソコンのハードウェアとしての状態を設定するためのソフトウェアです。

日常的にお使いになる範囲では、BIOS セットアップを操作する必要はありません。設定が必要な場合のみ、お読みください。正しく設定しないとパソコンが正常に動作しなくなることもあります。

また、BIOS セットアップの画面、項目名、仕様は、改善のため予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

1. BIOS セットアップとは	80
2. BIOS セットアップの操作のしかた	81
3. ご購入時の設定に戻す	86
4. BIOS のパスワード機能を使う	88
5. BIOS が表示するメッセージ一覧	93

1 BIOS セットアップとは

BIOS (バイオス) セットアップはメモリやハードディスク、フロッピーディスクドライブなどのハードウェアの環境を設定します。

このパソコンでは、あらかじめ最適な状態に設定されています。次のような場合にのみ設定を行ってください。

- 特定の人だけがパソコンを利用できるように、パソコンにパスワード（暗証番号）を設定するとき
- ハードディスクやフロッピーディスクなどの働きを設定するとき
- 電源を入れたとき、または再起動したときに、BIOS セットアップに関するメッセージが表示されたとき

POINT

▶ バッテリの交換について

BIOS セットアップで設定した内容は、パソコン本体内部の CMOS RAM (シーモスラム) と呼ばれるメモリに記録されます。この CMOS RAM は、記録した内容をバッテリによって保存しています。BIOS セットアップを正しく行っても、電源を入れたとき、または再起動したときに、BIOS セットアップに関するメッセージが表示されるときは、この CMOS RAM に設定内容が保存されていないおそれがあります。バッテリが消耗していることが考えられますので、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービスまたはご購入元にご連絡ください。

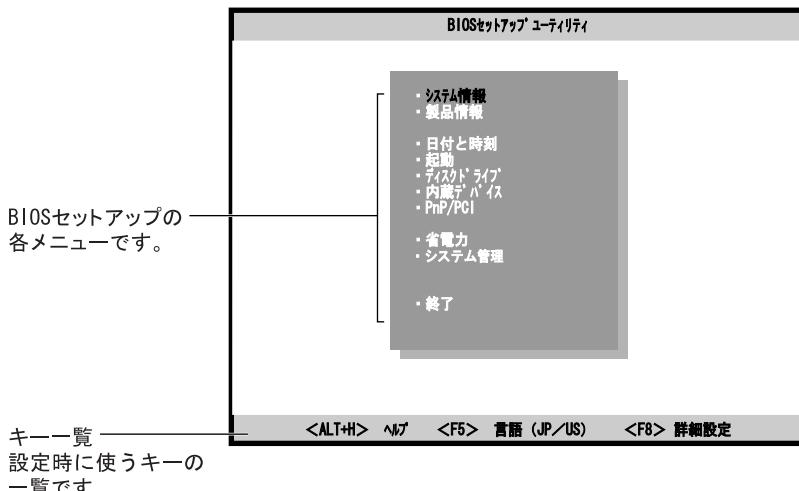
パーソナルエコーセンターのご利用については、『富士通パソコンご案内』をご覧ください。

2 BIOS セットアップの操作のしかた

ここでは、BIOS セットアップの始めかた、終わりかた、設定の変更のしかたについて説明します。

BIOS セットアップを起動する

- 1 それまでパソコンで行っていた作業を終了します。
必要に応じてデータを保存し、アプリケーションを終了してください。
- 2 「スタート」ボタン 「Windows の終了」の順にクリックします。
- 3 「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックします。
パソコンが再起動します。
- 4 画面下に「<F2> : BIOS セットアップ <F12> : 起動メニュー」と表示されている間に、**[F2]** を押します。
BIOS セットアップのメインメニュー画面が表示されます。



POINT

- ▶ Windows98 が起動してしまうと、BIOS セットアップを始められません。
Windows98 が完全に起動するのを待ってから、もう一度手順 2 ~ 4 の操作を行ってください。
- ▶ 英語の画面が表示されたときは、**[F5]** を押して、日本語の画面に変えて下さい。

設定を変更する

BIOS セットアップは、キーボードを使ってすべての操作を行います。

- 1   を押して、設定を変更したいメニューにカーソルを合わせます。



- 2 設定を変更したいメニューが水色で表示されていることを確認し、 を押します。

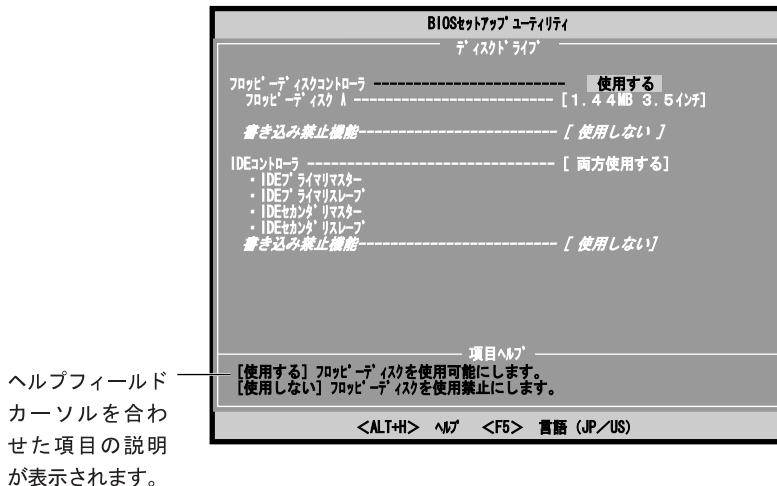
詳細設定項目を表示するときは、 を押してから  を押します。

POINT

- 本章の画面の中で、斜体表示されている項目は詳細設定項目です。通常は表示されません。
通常は、詳細設定画面の設定を変更する必要はありません。

3 を押して、設定を変更したい項目にカーソルを合わせます。

- ・の付いている項目はサブメニューがあることを表します。
- ・の付いている項目にカーソルを合わせて を押すと、サブメニューが表示されます。



ヘルプフィールド
カーソルを合わせた項目の説明
が表示されます。

4 を押して、設定を変更します。

項目の中には、数値を入力するものもあります。詳しくは、BIOS 画面のヘルプをご覧ください。

さらに他のメニューの設定を変更したいときは、 を押してメインメニューに戻り、手順 1 から繰り返します。

サブメニューを表示していた場合は、 を押すと 1 つ前の画面に戻ります。

POINT

- ▶ 誤って変更してしまった設定を前回保存したときの設定に戻すことができます。ただし、変更した設定をいったん保存した場合は、保存した設定に戻ります。

1 終了メニューを表示させます。

2 「変更前の値を読み込む」を選び、 を押します。

「変更前の値を読み込みますか？」というメッセージが表示されます。

3 「はい」を選び、 を押します。

設定が、前回保存したときの値に戻ります。

保存した設定をご購入時の状態に戻すには、「[ご購入時の設定に戻す](#)」([P.86](#))をご覧ください。

BIOS セットアップを終了するときは、「[BIOS セットアップを終了する](#)」([P.84](#))をご覧ください。

設定時に使う各キーの役割

	前画面に戻ります。各メニューが表示されているときは、メインメニューに戻ります。サブメニュー やヘルプが表示されているときは、各メニューに戻ります。 メインメニューが表示されているときは、BIOS セットアップを終了するメッセージが表示されます。
	・が付いている項目のサブメニューを表示します。または、設定を選択します。
	設定するメニュー や項目、設定にカーソルを移動します。
	設定を変更します。
	BIOS セットアップ画面の表示を英語、または日本語に切り替えます。
	メインメニューで押すと、詳細設定項目が表示されます。 もう一度 を押すと表示は消えます。
	このキーを押したときの画面上で使えるキーと、そのキーの役割について表示されます。 を押すと表示は消えます。

BIOS セットアップを終了する

1 各メニューの設定を終了し、 を押してメインメニュー画面を表示します。

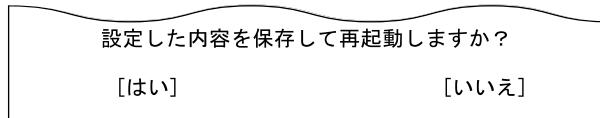
2 を押して、「終了」にカーソルを合わせます。



3 **[Enter]** を押します。**4** 次のいずれかの操作を行います。

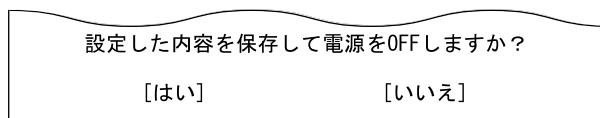
- 設定を保存して BIOS セットアップを終了し、Windows98 を起動する場合

[↑] [↓] を押して、「変更を保存して終了する（再起動）」にカーソルを合わせ、
[Enter] を押します。次のメッセージが表示されます。



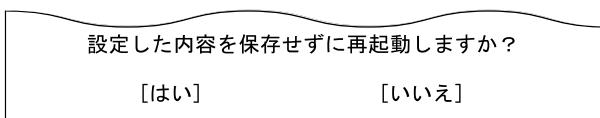
- 設定を保存して BIOS セットアップを終了し、パソコンの電源を切る場合

[↑] [↓] を押して、「変更を保存して終了する（電源 OFF）」にカーソルを合わせ、
[Enter] を押します。次のメッセージが表示されます。



- 設定を保存しないで BIOS セットアップを終了し、Windows98 を起動する場合

[↑] [↓] を押して、「変更を保存せずに終了する（再起動）」にカーソルを合わせ、
[Enter] を押します。次のメッセージが表示されます。

**5** **[←] [→]** を押して、「はい」にカーソルを合わせ（水色で表示されている状態）

[Enter] を押します。

BIOS セットアップが終了します。

3 ご購入時の設定に戻す

BIOS セットアップの設定をご購入時の状態（標準設定値）に戻す方法は次のとおりです。

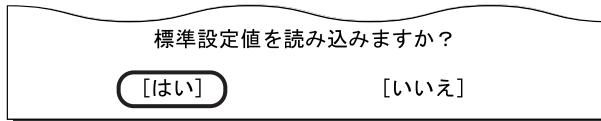
- 1 メインメニュー画面が表示されていないときは、**[Esc]** を押してメインメニュー画面を表示します。
BIOS セットアップを起動していない場合は、「[BIOS セットアップを起動する](#)」(P.81) をご覧になり、BIOS セットアップを起動してください。
- 2 **[↑] [↓]** を押して、「終了」にカーソルを合わせ、**[Enter]** を押します。



- 3 **[↑] [↓]** を押して、「標準設定を読み込む」にカーソルを合わせ、**[Enter]** を押します。



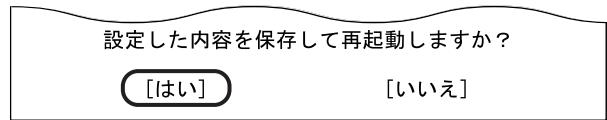
- 4**   を押して「はい」にカーソルを合わせ（水色で表示されている状態）、
 を押します。



- 5**   を押して「変更を保存して終了する（再起動）」にカーソルを合わせ、
 を押します。



- 6**   を押して「はい」にカーソルを合わせ（水色で表示されている状態）、
 を押します。



BIOS セットアップが終了し、Windows98 が起動します。

4 BIOS のパスワード機能を使う

このパソコンでは、特定の人だけが起動や BIOS セットアップを行えるように、パスワードを設定することができます。

ここでは、パスワードの設定方法や変更方法などについて説明します。

パスワードの種類

このパソコンで設定できるパスワードは次の 2 つです。

- 管理者用パスワード

特定の人だけが、BIOS セットアップを行えるようにするためのパスワードです。

- ユーザー用パスワード

特定の人だけが、このパソコンを使えるようにするためのパスワードです。

設定したパスワードを入力しないと、BIOS セットアップおよび OS が起動しないようにします。

このパスワードで BIOS セットアップを起動した場合は、システム日付、システム時刻、ユーザーパスワードのみ変更できます。

パスワードを設定する

管理者用パスワード、ユーザー用パスワードを設定する方法を説明します。

重要

- ▶ ユーザー用パスワードを設定するときは管理者用パスワードを設定してください。
ユーザー用パスワードは、管理者用パスワードが設定されているときにのみ設定できます。

1 BIOS セットアップを起動します。

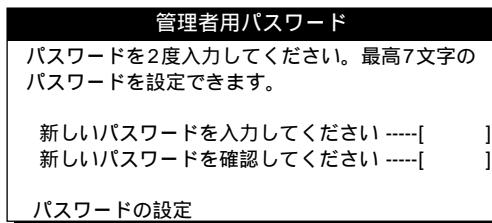
起動のしかたについては「[BIOS セットアップを起動する](#)」(▶P.81)をご覧ください。

2   を押して、「システム管理」にカーソルを合わせ、 を押します。

3   を押して、「管理者用パスワード」または「ユーザー用パスワード」にカーソルを合わせます。

4  を押します。

パスワードを入力するウィンドウが表示されます。

**5** パスワードを入力します。

入力できる文字はアルファベットと数字です。最大7文字までなら何文字でもかまいません。

入力した文字は表示されず、かわりに「*」が表示されます。

※ 重 要

- ▶ 入力したパスワードは忘れないようにしてください。
パスワードを忘れてしまったときは、「[パスワードを忘れてしまったら](#)」([P.90](#))をご覧ください。

6  を押します。

カーソルが「新しいパスワードを確認してください。」の項目に移ります。

7 手順5で入力したパスワードをもう一度入力し、 を押します。**8**  を押します。

設定値が「設定済み」になります。

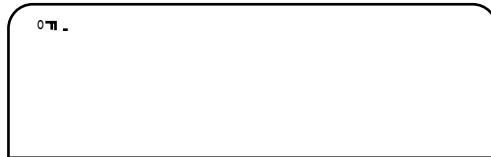
再入力したパスワードが、手順5で入力したものと違っていた場合は、メッセージが表示されます。 を押して、手順5から操作し直してください。

9 続いてもう一方のパスワードを設定する場合は、手順3～8を繰り返します。**10** 設定内容を保存して、BIOS セットアップを終了します。

終了のしかたについては「[BIOS セットアップを終了する](#)」([P.84](#))をご覧ください。

パスワード設定後のパソコンの起動

パスワードを設定すると、次に電源を入れたとき、または BIOS セットアップを始めるときに、次の画面が表示されます。パスワードを入力し、[Enter] を押してください。



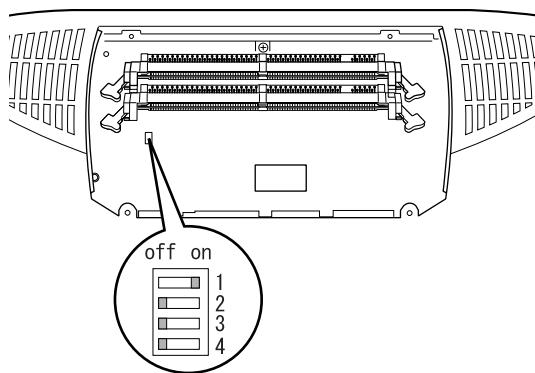
○ 重要

- 誤ったパスワードを 3 回入力すると、「不正確なパスワードが入力されました。システムは使用できません。」というメッセージが表示され、パソコンが停止します。その場合は、電源スイッチを 4 秒以上押し続けてパソコンの電源を切ってから 10 秒ほど待つて、もう一度電源を入れます。そのあと、正しいパスワードを入力してください。

パスワードを忘れてしまったら

設定したパスワードを忘れてしまい、BIOS セットアップや起動ができなくなった場合は、パソコン本体内部のディップスイッチ (SW1) を変更してください。

ディップスイッチの位置



○ POINT

- もう一度パスワードを設定するときは、ディップスイッチの 1 を ON にしてから、もう一度パスワードを設定してください。パスワードの設定方法は、「[パスワードを設定する](#)」(●▶ P.88) をご覧ください。

ディップスイッチを変更する

△ 警告



- ディップスイッチを変更するときは、パソコン本体と接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。
感電の原因となります。

△ 注意



- 基板表面上の突起物には手を触れないでください。
けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

- 1 「メモリを交換する」([…▶P.58](#))をご覧になり、メモリカバーを取り外します。
- 2 「メモリを交換する」([…▶P.58](#))をご覧になり、メモリスロット 1 のメモリを取り外します。
- 3 ディップスイッチ (SW1) の 1 を「ON」から「OFF」に変更します。
パソコンのご購入時は、「ON」に設定されています。
- 4 「メモリを取り付ける」([…▶P.53](#))をご覧になり、メモリスロット 1 に取り外したメモリを取り付けます。
- 5 「メモリを取り付ける」([…▶P.53](#))をご覧になり、メモリカバーを取り付けます。
ケーブルをつなぎ、電源プラグをコンセントに差しこむと、自動的に電源が入ります。
- 6 BIOS セットアップを起動します。
起動のしかたについては「[BIOS セットアップを起動する](#)」([…▶P.81](#))をご覧ください。

パスワードを変更／削除する

パスワードを変更する

- 1 BIOS セットアップを起動します。
起動のしかたについては「[BIOS セットアップを起動する](#)」([…▶P.81](#))をご覧ください。
- 2 を押して、「システム管理」にカーソルを合わせ、 を押します。
- 3 を押して、「管理者用パスワード」、または「ユーザー用パスワード」にカーソルを合わせます。
- 4 を押して、設定を「未設定」に戻します。

重要

- 管理者用パスワードを変更すると、ユーザー用パスワードも一緒に削除されます。

5 設定内容を保存して BIOS セットアップを終了します。

終了のしかたについては、「[BIOS セットアップを終了する](#)」([P.84](#))をご覧ください。

パスワードを削除する

重要

- 管理者用パスワードを削除すると、ユーザー用パスワードも一緒に削除されます。
- ユーザー用パスワードを削除すると、管理者用パスワードでしか BIOS セットアップおよび OS が起動できなくなります。

1 BIOS セットアップを起動します。

起動のしかたについては「[BIOS セットアップを起動する](#)」([P.81](#))をご覧ください。

2 を押して、「システム管理」にカーソルを合わせ、 を押します。

3 を押して、「管理者用パスワード」、または「ユーザー用パスワード」にカーソルを合わせます。

4 を押して、設定を「未設定」に戻します。

5 設定内容を保存して BIOS セットアップを終了します。

終了のしかたについては、「[BIOS セットアップを終了する](#)」([P.84](#))をご覧ください。

5 BIOS が表示するメッセージ一覧

ここでは、パソコンが表示するエラーメッセージ（BIOS メッセージ）について説明します。必要に応じてお読みください。

メッセージが表示されたときは

次の「メッセージ一覧」をご覧になり、次のいずれかの方法でエラーを解消してください。

- BIOS セットアップの設定を変更する

BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示されたときは、BIOS セットアップを起動して、エラー項目の設定が正しいか確認してください。

また、「[ご購入時の設定に戻す](#)」（[P.86](#)）をご覧になり、BIOS セットアップの設定を標準設定値に戻してください。

- 周辺機器の取り付けを確認する

別売の周辺機器を取り付けているときは、それらが正しく取り付けられているか確認してください。また、IRQ（割り込み要求）などの設定が正しくされているかも確認してください。このとき、周辺機器のマニュアルや、ユーティリティソフトがある場合は、それらのマニュアルもあわせてご覧ください。

上記の方法で対処してもエラーメッセージが表示される場合、または次の「メッセージ一覧」に当たるメッセージがない場合は、パソコンが故障している可能性があります。弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご連絡ください。

メッセージ一覧

- メモリーエラーです。XXXX:YYYY:ZZZZh(R:xxxxh,W:yyyyh)

Memory Error at XXXX:YYYY:ZZZZh(R:xxxxh,W:yyyyh)

パソコンの電源を切り、メモリが正しく取り付けられているか確認してください。

正しく取り付けられているときは、弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご連絡ください。

- キーボードエラーです。または、キーボードが接続されていません。

Keyboard Error or Not Connected

パソコンの電源を切り、キーボードが正しく接続されているか確認してください。

正しく取り付けられているときは、弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご連絡ください。

- 装置の設定エラーです。

Equipment Configuration Error

弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご連絡ください。

- フロッピーディスクコントローラのエラーです。

Floppy Disk Controller Error

弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご連絡ください。

- フロッピーディスク A のエラーです。

Floppy Drive A Error

弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご連絡ください。

- IDE プライマリマスターのエラーです。

IDE Primary Channel Master Drive Error

弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご連絡ください。

- CPU BIOS 更新コードが不一致です。

CPU BIOS Update Code Mismatch

弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご連絡ください。

- CPU クロックが不一致です。

CPU Clock Mismatch

[F2] を押して BIOS セットアップを起動し「[ご購入時の設定に戻す](#)」([P.86](#)) の操作を行ってください。

それでも本メッセージが表示される場合は、弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご連絡ください。

- リアルタイムクロックのエラーです。

Real Time Clock Error

[F2] を押して BIOS セットアップを起動し、「[ご購入時の設定に戻す](#)」([P.86](#)) の操作を行ってください。

それでも本メッセージが表示される場合は、弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご連絡ください。

- CMOS バッテリが損傷しています。

システム CMOS のチェックサムが正しくありません。

CMOS Battery Bad

CMOS Checksum Error

[F2] を押して BIOS セットアップを起動し、「[ご購入時の設定に戻す](#)」([P.86](#)) の操作を行ってください。

それでも本メッセージが表示される場合は、バッテリの交換が必要です。弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご連絡ください。

- I/O アドレスが競合しています。

I/O Resource Conflict(s)

[F2] を押して BIOS セットアップを起動し、**[F8]** を押して「PnP/PCI」メニューで「リソース (ESCD) の初期化」を「はい」に設定して、パソコンを再起動してください。

それでも本メッセージが表示される場合は、弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご連絡ください。

- メモリのリソースが競合しています。

Memory Resource Conflict(s)

〔F2〕を押して BIOS セットアップを起動し、〔F8〕を押して「PnP/PCI」メニューで「リソース（ESCD）の初期化」を「はい」に設定して、パソコンを再起動してください。
それでも本メッセージが表示される場合は、弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご連絡ください。

- IRQ 設定のエラーです。

IRQ Setting Error

〔F2〕を押して BIOS セットアップを起動し、〔F8〕を押して「PnP/PCI」メニューで「リソース（ESCD）の初期化」を「はい」に設定して、パソコンを再起動してください。
それでも本メッセージが表示される場合は、弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご連絡ください。

- 拡張 ROM の割り当てに失敗しました。

Expansion ROM Allocation Failed

パソコンの電源を切り、増設した周辺機器が正しく取り付けられているか確認し、もう一度パソコンの電源を入れてください。
それでも本メッセージが表示される場合は、弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご連絡ください。

- システムディスクを挿入し、<Enter> キーを押してください。

Insert system diskette and press Enter key to reboot

弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご連絡ください。

- PS/2 キーボードのエラーです。

PS/2 Keyboard Interface Error

弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご連絡ください。

- PS/2 マウスのエラーです。

PS/2 Pointing Device Error

弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご連絡ください。

- Invalid system disk

Replace the disk, and then press any key

フロッピーディスクドライブに、システム以外のフロッピーディスクをセットしたまま電源を入れると表示されます。

フロッピーディスクを取り出して、何かキーを押してください。

第4章

技術情報

4

ハードウェアのお手入れ方法や、注意事項などについて説明しています。

- | | |
|----------------------|-----|
| 1. ハードウェアのお手入れ | 98 |
| 2. その他の注意事項 | 101 |

1 ハードウェアのお手入れ

ここではパソコンを快適にお使いいただくために、パソコンのお手入れのしかたを説明します。

お手入れのしかたは、液晶ディスプレイ、マウス、フロッピーディスクドライブなど、各部によって異なります。それぞれの部分にあったお手入れをしてください。

⚠ 警告



- お手入れを行うときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
接続されている機器を、パソコン本体から取り外してください。

⚠ 重要

- ▶ シンナーやベンジンなどの揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。
アルコール成分を含んだ市販のクリーナーは使わないでください。
- ▶ 液晶ディスプレイの画面部分は、ガーゼなどの柔らかい布で拭いてください。
- ▶ パソコン本体や AC アダプタを清掃するときは、必ず AC アダプタをパソコン本体から取り外してください。

パソコン本体／AC アダプタ／液晶ディスプレイ／キーボードのお手入れ

パソコン本体の通風孔にほこりがたまらないよう、定期的に清掃してください。

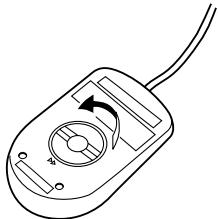
汚れは、乾いた柔らかい布で軽く拭き取ってください。

汚れがひどいときは、水または中性洗剤を含ませた布を固く絞って、拭き取ってください。中性洗剤を使って拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って、中性洗剤を拭き取ってください。また拭き取るときは、パソコン本体や AC アダプタ、液晶ディスプレイ、キーボードに水が入らないよう十分注意してください。

マウスのお手入れ

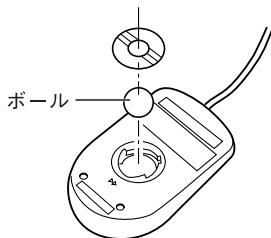
表面の汚れは、乾いた布か、または水か中性洗剤を含ませた布で軽く拭き取ってください。また、マウスの裏にあるボールが汚れていると、すべりが悪くなります。マウスのボールは、マウスから取り外してクリーニングできます。ボールのクリーニング方法は次のとおりです。

- 1** マウスの裏プラグを、矢印の方向に回して取り外します。



- 2** ボールを取り出して、水または中性洗剤で洗います。

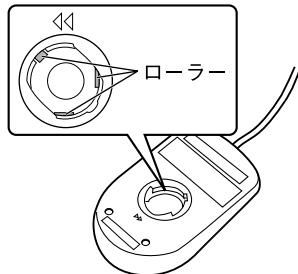
洗ったあと、乾いた布でよく拭いて十分に乾かしてください。



- 3** マウス内部の汚れを拭き取ります。

水に浸して固く絞った布で、マウス内部および裏プラグを拭きます。

ローラー部分は水で湿らせた綿棒などで拭いてください。



- 4** ボールをマウスに戻し、裏プラグを取り付けます。

POINT

- ▶ ゴミは完全に取り除いてください。ローラー部分にゴミがたまると、マウスが正常に動かない原因となることがあります。

フロッピーディスクドライブのお手入れ

フロッピーディスクは長い期間使っていると、ヘッド（データを読み書きする部分）が汚れてしまいます。ヘッドが汚れると、データを正常に読み書きできなくなります。別売のクリーニングフロッピーをご購入になり、3ヶ月に1回はクリーニングを行ってください。

用意するもの

商品名：クリーニングフロッピィマイクロ

商品番号：0212116（富士通コワーコ株式会社取り扱い品 お問い合わせ：03-3342-5375）

お手入れのしかた

△ 注意



- クリーニングフロッピーをセットまたは取り出すときには、フロッピーディスクドライブの差し込み口に指などを入れないでください。
けがの原因となることがあります。

- 1 「スタート」ボタン 「プログラム」 「MS-DOS プロンプト」の順にクリックします。
「MS-DOS プロンプト」ウィンドウが表示されます。
- 2 「C:¥WINDOWS>」に続けて次のように入力し、[Enter] を押します。
c:¥fjuty¥clndsk 0
「clndsk」と「0（数字のゼロ）」の間は、[] を1回押してください。
- 3 クリーニングフロッピーをフロッピーディスクドライブにセットし、[Enter] を押します。
「クリーニング中です。あと XX 秒」と表示され、クリーニングがはじまります。
しばらくすると、「ヘッドクリーニングが終了しました。」と表示されます。
- 4 フロッピーディスクアクセス表示ランプが消えているのを確認し、クリーニングフロッピーを取り出します。
- 5 「MS-DOS プロンプト」ウィンドウ右上の [X] をクリックします。
「MS-DOS プロンプト」ウィンドウを全画面表示しているときは、「exit」と入力し、[Enter] を押してください。

2 その他の注意事項

インテル® プロセッサ シリアル ナンバについて (K4/66 のみ)

インテルプロセッサ・シリアル・ナンバ

インテル® Pentium® III プロセッサに組み込まれた電気的に読み取り可能なシリアル番号で、ウェブ上でのセキュリティ向上や情報管理・資産管理などに利用することができます。プロセッサ・シリアル・ナンバについては、以下の URL を参照してください。

<http://www.intel.com/jp/pentiumiii>

スタンバイ時の注意

- 電源スイッチなどでパソコンをスタンバイにしても、まれに、すぐに復帰する場合があります。その場合には、一度マウスを動かしてから、再びスタンバイにしてください。
- WAVE/MIDI/AVI/MPEG/DAT などのマルチメディア関連のファイルおよび CD、DVD を再生する場合、「電源の管理のプロパティ」ウィンドウで「システムスタンバイ」を「なし」に設定してください。

画面表示について

次の場合に画面がちらついたり、ノイズが表示されたりすることがあります。

- 解像度が切り替わる瞬間(起動中や、MS-DOS プロンプトの全画面モードへの切り替わり時など)
- 再起動したとき
- 電源を入れたとき、切ったとき
- スタンバイになるとき、スタンバイから復帰するとき
- 「画面のプロパティ」ウィンドウで「詳細」をクリックしたとき

電源の切斷について

システムが停止した状態で電源を切る場合、電源スイッチを4秒以上押し続けて指を離したときに、電源が再投入されることがあります。その場合は、再起動時に画面の左下に「<F2> : BIOS セットアップ <F12> : 起動メニュー」と表示されていることを確認し、もう一度電源スイッチを4秒以上押し続けて電源を切ってください。

索引

A

AC アダプタのお手入れ 98

B

BIOS セットアップ 80

- のパスワード機能を使う 88
- を起動する 81
- をご購入時の設定に戻す 86
- を終了する 84
- メッセージ一覧 93

BUSY ランプ 13

C

CMOS RAM 80

D

DC-IN コネクタ 13

DIMM 52

DVD-ROM ドライブ 13

DV ケーブル 35

E

ECC 52

EJECT ボタン 13

I

IDE 66

IEEE1394 12

IEEE1394 (DV) 端子 12, 35

Intel(R) プロセッサ・シリアルナンバ 101

L

LAN カード 29

LINE IN 端子 14

LINE OUT 端子 14

LINE 端子 14

M

MD 46

MO 61

MO ドライブ 61

P

PC カード 28

- 注意 28

- をセットする 30

- を取り出す 32

PC カードストッパー 12

PC カードスロット 12

PC カード取り出しボタン 12

PHONE 端子 14

PHS 48

PIAFS(ピアフ) 48

S

SCSI 40, 61, 66

SCSI カード 40, 62, 66

SCSI ケーブル 40, 62, 66

SDRAM 52

SPD 52

T

TWAIN 40

U

USB 機器 42

USB ケーブル 42

USB コネクタ 14

USB 変換ケーブル 26

あ

アース端子 14

アクセス表示ランプ 10

インジケータ 16

液晶ディスプレイ 10

- の明るさの変更 11

- のお手入れ 98

エラーメッセージ 93

お手入れ 98

- 液晶ディスプレイ	98
- キーボード	98
- パソコン本体	98
- フロッピーディスクドライブ	100
- マウス	99

か

解像度	19
- の変更	20
各部の名称と働き	10
画面	19
キーボード	15
- のお手入れ	98
クリック	18
携帯電話	48

さ

システムバスクロック	52
終端抵抗	40, 62, 66
周辺機器	24
スキャナを接続する	40
スクロールボタン	18
スピーカー	11
増設する	
- MO ドライブ	61
- ハードディスク	66
- メモリ	51
外付け MO ドライブ	62
- を取り付ける	63
外付けハードディスク	66

た

ターミナルアダプタ	44
ターミネータ	40, 62, 66
ディップスイッチ	90
デジタルカメラ	38
デジタルビデオカメラ	35
電源スイッチ	11
電源ランプ	11
盗難防止用ロック	14
取り付ける	
- 外付け MO ドライブ	63
- 外付けハードディスク	66
- メモリ	53

は

ハードディスク	66
- の領域を削除する	72
- の領域を設定する	67
- 増設時のドライブ名の割り当て	74
- を増設する	66
- をフォーマットする	74
パスワード	88
- を忘れてしまったら	90
パソコン本体	10
- のお手入れ	98
発色数	19
- を変更する	20
光磁気ディスク	61
光デジタルオーディオケーブル	46
左ボタン	18
フォトレタッチソフト	40
ブライトネスボリューム	11
プリンタ	26
プリンタケーブル	26
プリンタを接続する	26
フロッピーディスク	
アクセス表示ランプ	12
フロッピーディスクドライブ	12
- のお手入れ	100
フロッピーディスク取り出しボタン	12
ヘッドホン端子 / 光デジタル	
オーディオ出力端子	13

ま

マイク端子	13
マウス	18
- のお手入れ	99
右クリック	18
右ボタン	18
メール着信ランプ	10
メモリ	51
- の組み合わせ	53
- の取り付け場所	51
- の持ちかた	54
- 容量を確認する	56
- を取り付ける	53
- を増やす	51
メモリスロット	51
モデム	49

ら

領域

- を削除する 72
- を設定する 68

FMV-DESKPOWER K4/66、K4/56c

ハードウェアガイド
B5FH-0061-01-00

発行日 2000年5月

発行責任 富士通株式会社

本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。

本書に記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。

無断転載を禁じます。

